株式会社関電工

2027年3月期 第2四半期
決算説明会資料

株式会社関電工

2026.11.10

目次

01 決算概要

02 資本効率向上への取り組み

03 次期中期経営計画の方向性

04 Appendix

01 決算概要

Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

2027年3月期 第2四半期決算 業績サマリー

- 前年同期比で増収増益
- 完成工事高、各段階利益で2Q時点の過去最高を更新
- 完成工事高は、配電線工事や工務関係工事を中心に増加
- 利益は、完成工事高の増加・利益率向上により増加
- 単体の新規受注高は、屋内線・環境設備工事を中心に増加し、2Q時点の過去最高を更新

決算の詳細は以下資料をご参照ください

決算情報等　2026年度（2027年3月期） | 関電工

- 2027年3月期 第2四半期決算短信
- 2027年3月期 第2四半期決算参考資料

完成工事高

連結 **3,515億円**

前年同期比 +3.2%

完成工事総利益

連結 **636億円**

前年同期比 +17.7%

営業利益

連結 **439億円**

前年同期比 +15.9%

経常利益

連結 **450億円**

前年同期比 +15.6%

親会社株主に帰属する中間純利益

連結 **290億円**

前年同期比 +10.2%

新規受注高

単体 **4,421億円**

前年同期比 +13.8%

Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

連結 単体

完成工事高

■ 生産性向上・施工体制の効率化等の取り組みにより、手持工事が順調に進捗し、連結・単体ともに過去最高を更新

屋内線・環境設備工事

前年度に大型案件が進捗した反動で減少したが、首都圏の再開発やデータセンター等の大型案件が順調に進捗

情報通信工事

CATV設備の大型案件や通信事業者の単価契約工事等が順調に進捗

配電線工事

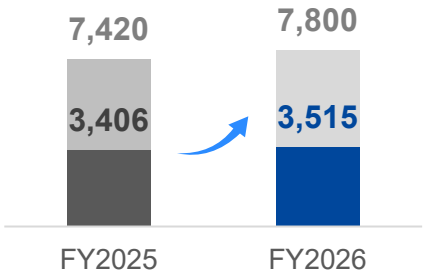
効率的な施工力の運用により、東京電力工事を確実に竣工

工務関係工事

風力発電所工事・原子力工事・東京電力設備の管路新設工事等の大型案件が順調に進捗

連結 完成工事高

（億円）

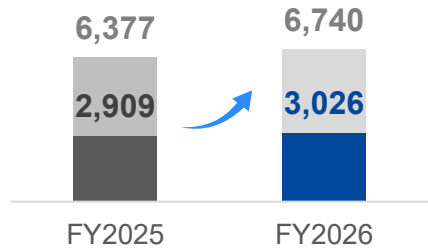


前年同期比 + 3.2%

対通期予想進捗率 45.1%

単体 完成工事高

（億円）

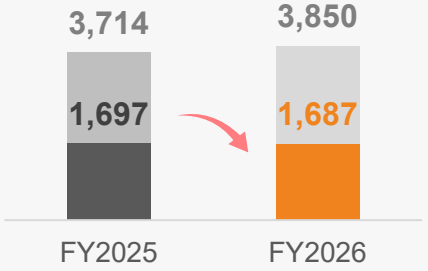


前年同期比 + 4.0%

対通期予想進捗率 44.9%

屋内線・環境設備工事

（億円）

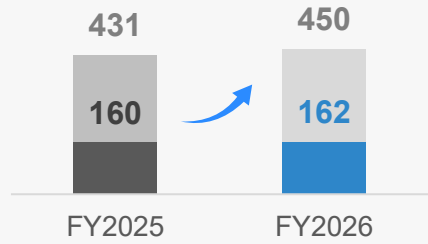


前年同期比 △ 0.6%

対通期予想進捗率 43.8%

情報通信工事

（億円）

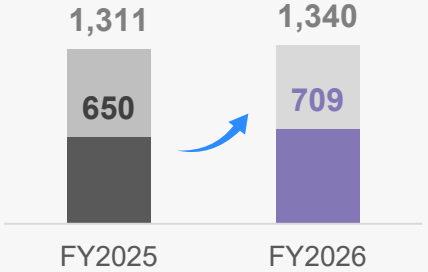


前年同期比 + 1.6%

対通期予想進捗率 36.2%

配電線工事

（億円）

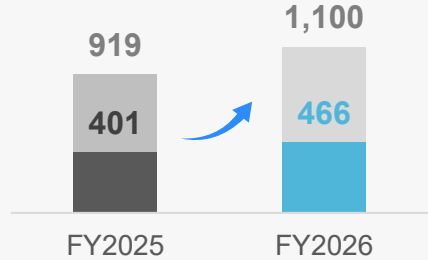


前年同期比 + 9.1%

対通期予想進捗率 53.0%

工務関係工事

（億円）



前年同期比 + 16.2%

対通期予想進捗率 42.4%

Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

連結

利益

■ 完成工事高の増加・利益率の向上により、各段階利益で過去最高を更新

各段階利益

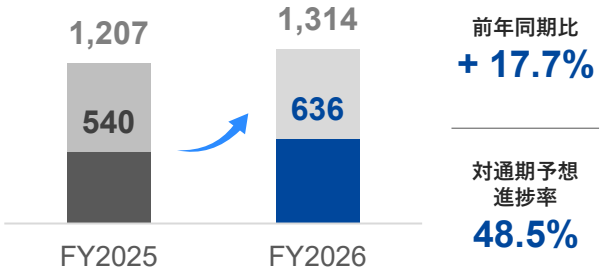
手持工事の順調な進捗による完成工事高の増加と、採算性改善に向けた取り組みによる利益率の向上により増加

販管費

処遇改善による人件費、IT関連費用、租税公課等を中心に増加

連結 完成工事総利益

（億円）

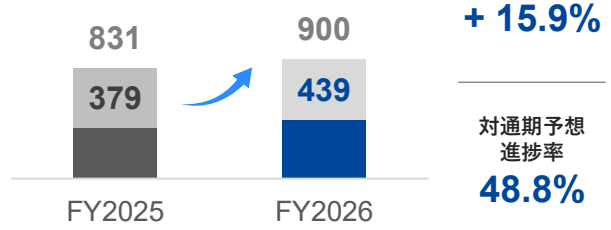


前年同期比 + 17.7%

対通期予想進捗率 48.5%

連結 営業利益

（億円）

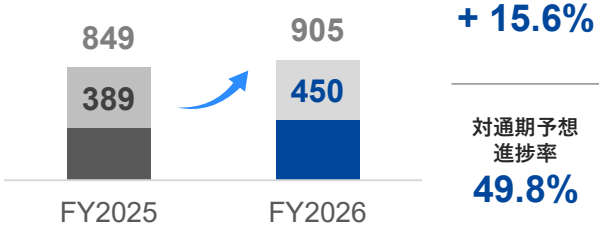


前年同期比 + 15.9%

対通期予想進捗率 48.8%

連結 経常利益

（億円）

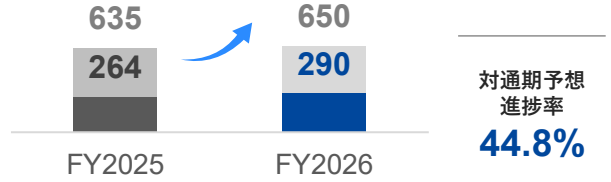


前年同期比 + 15.6%

対通期予想進捗率 49.8%

連結 親会社株主に帰属する中間純利益

（億円）

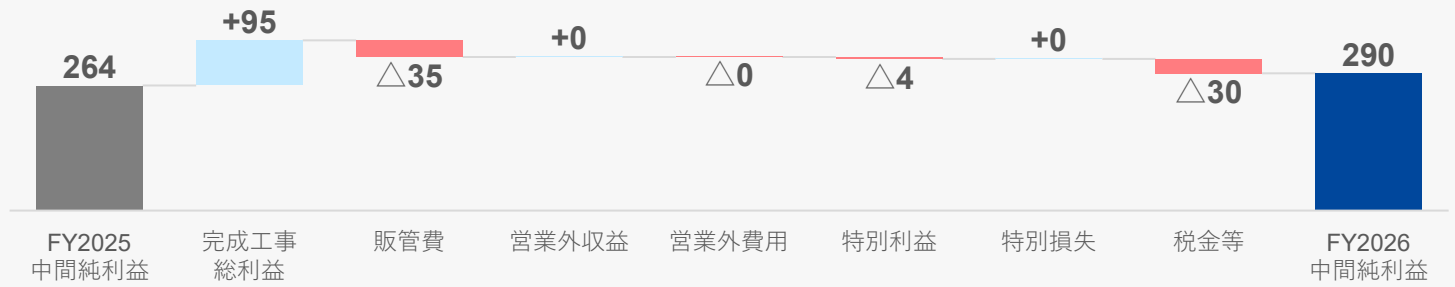


前年同期比 + 10.2%

対通期予想進捗率 44.8%

親会社株主に帰属する中間純利益の増減要因

（億円）



Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

単体

新規受注高

■ 旺盛な建設需要を背景に、戦略的な営業活動を展開し、過去最高を更新

屋内線・環境設備工事

首都圏の再開発やデータセンター、半導体関連工場等の大型案件を獲得したほか、リニューアル工事の受注も高水準を維持

情報通信工事

前年度に大型案件を獲得した反動で減少したが、CATV事業者向けネットワーク工事やデータセンター等の大型案件を獲得

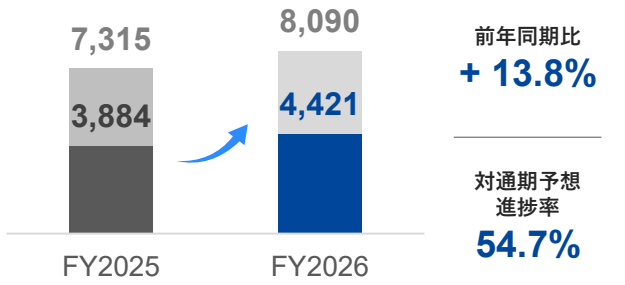
配電線工事

レベニューキャップ制度に基づく堅調な投資により、東京電力工事の受注が好調に推移

工務関係工事

風力発電所工事や東京電力設備の管路新設工事等の大型案件を獲得

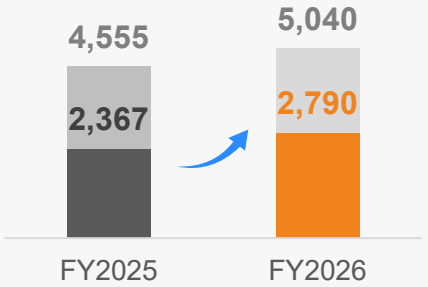
単体 新規受注高 （億円）



前年同期比
+ 13.8%

対通期予想進捗率
54.7%

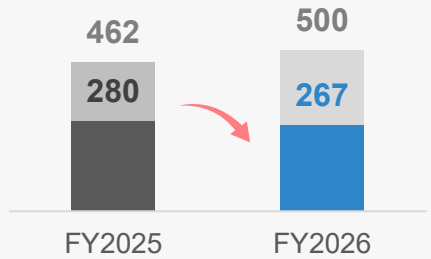
屋内線・環境設備工事 （億円）



前年同期比
+ 17.9%

対通期予想進捗率
55.4%

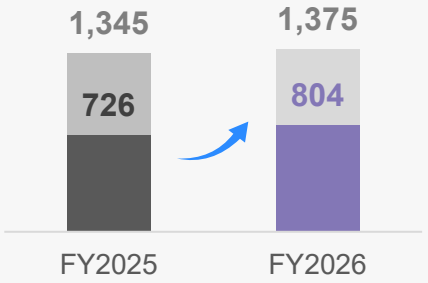
情報通信工事 （億円）



前年同期比
△ 4.5%

対通期予想進捗率
53.5%

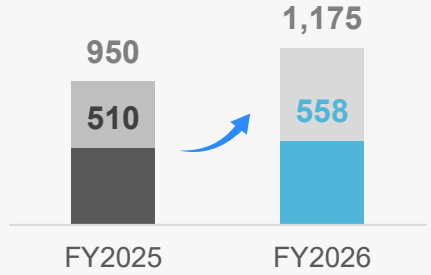
配電線工事 （億円）



前年同期比
+ 10.8%

対通期予想進捗率
58.5%

工務関係工事 （億円）



前年同期比
+ 9.4%

対通期予想進捗率
47.5%

Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

連結 単体

2027年3月期業績予想

■ 完成工事高・利益は、第2四半期業績予想に対して順調に進捗しており、通期業績予想も達成の見込み

連結

	上期実績（上期予想, 上期予想比）	通期予想比	通期業績予想
完成工事高	3,515億円（3,610億円, 97.4%）	45.1%	7,800億円
完成工事総利益	636億円（615億円, 103.5%）	48.5%	1,314億円
営業利益	439億円（432億円, 101.7%）	48.8%	900億円
経常利益	450億円（435億円, 103.5%）	49.8%	905億円
親会社株主に帰属する当期純利益	290億円（283億円, 102.8%）	44.8%	650億円

単体

	上期実績（上期予想, 上期予想比）	通期予想比	通期業績予想
新規受注高	4,421億円（4,210億円, 105.0%）	54.7%	8,090億円
完成工事高	3,026億円（3,070億円, 98.6%）	44.9%	6,740億円
完成工事総利益	520億円（505億円, 103.2%）	47.6%	1,094億円
営業利益	367億円（365億円, 100.6%）	47.9%	767億円
経常利益	381億円（371億円, 102.9%）	49.1%	778億円
当期純利益	260億円（251億円, 103.6%）	44.3%	587億円

Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

連結

バランスシート

（百万円）

• 資産の部	2026年3月末	2026年9月末
流動資産	397,872	379,570
固定資産	237,745	238,181
資産合計	**635,618**	**617,751**

• 負債の部	2026年3月末	2026年9月末
流動負債	207,100	179,454
固定負債	22,830	21,523
負債合計	**229,931**	**200,978**

• 純資産の部		
株主資本	355,553	368,953
その他の包括利益累計額	34,716	31,511
非支配株主持分	15,416	16,308
純資産合計	**405,687**	**416,773**
負債純資産合計	**635,618**	**617,751**

自己資本	**390,270**	**400,465**
自己資本比率	**61.4%**	**64.8%**

主な増減要因

■ **資産の部**

有価証券 ＋18,490、受取手形・完成工事高未収入金等 △38,878

有形固定資産 △801、無形固定資産＋1,036

■ **負債の部**

支払手形・工事未払金等 △27,189

■ **純資産の部**

利益剰余金 ＋13,368

Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

連結

キャッシュ・フロー

（百万円）

	FY2025.2Q	FY2026.2Q	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	33,808	51,433	17,625
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,286	△ 15,036	△ 8,750
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 22,585	△ 16,398	6,187
現金及び現金同等物の増減額	**4,995**	**19,969**	**14,973**
現金及び現金同等物の期首残高	**57,835**	**77,151**	**19,315**
現金及び現金同等物の期末残高	**62,831**	**97,120**	**34,289**

主な内容

■ **営業活動によるキャッシュ・フロー**

税金等調整前中間純利益 ＋45,006、売上債権の減少 ＋38,878、仕入債務の減少 △27,154

■ **投資活動によるキャッシュ・フロー**

有形固定資産の取得 △6,817、投資有価証券の取得 △4,286

■ **財務活動によるキャッシュ・フロー**

配当金の支払 △15,722

Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

02

資本効率向上への取り組み

Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

資本効率向上への取り組み

■ 資本効率向上に向けて、以下の取り組みを着実に実行

▶ 2024-2026年度中期経営計画の遂行

利益の創出
- 事業戦略×経営基盤強化戦略の推進

最適な事業ポートフォリオの構築
- 事業部門別のROIC管理による事業ポートフォリオの検証
- 固定資産のオフバランス化

低採算資産等の削減
- 政策保有株式の縮減

将来の成長に向けた資金確保
- CCCの改善
- 資金調達の多様化
- グループ金融の拡大

成長投資

3ヵ年1,250億円程度

- 持続的成長と中長期的な企業価値向上に資する投資


事業投資（M&A含む）


設備投資


IT・DX投資


研究開発

ROE向上

株主還元の拡充
- 安定的かつ継続的な株主還元

ステークホルダーとの信頼関係構築
- 適時適切な情報開示・発信
- 株主・投資家等との積極的な対話の促進

PER向上

PBR向上

Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

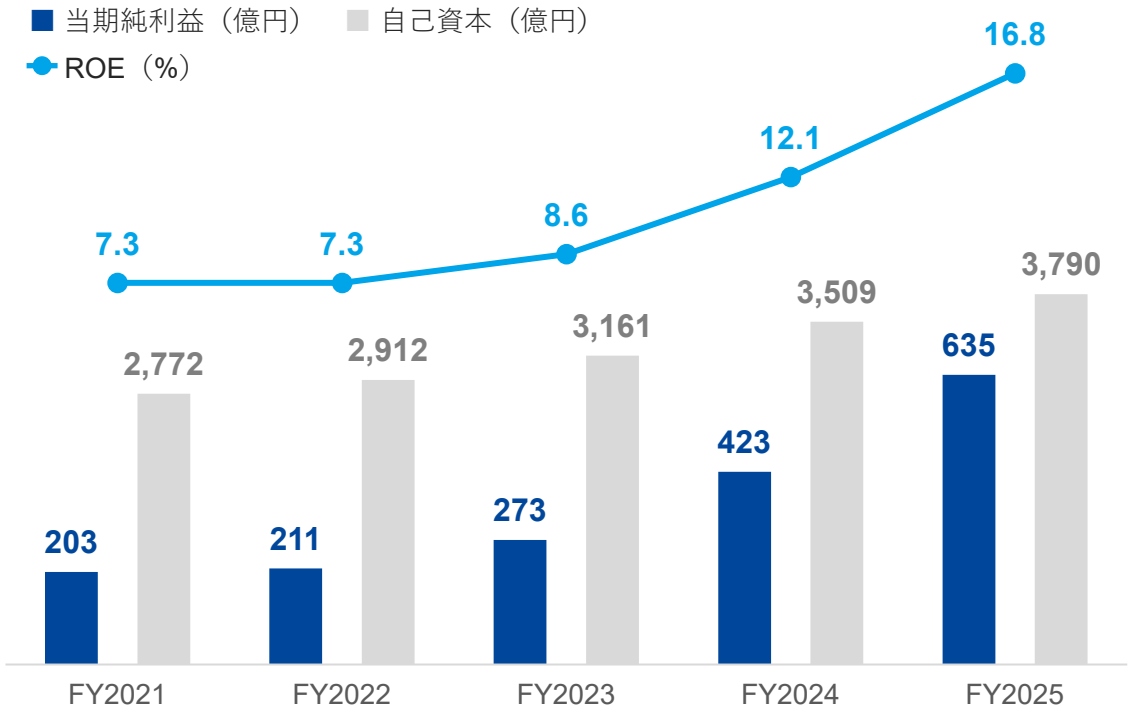
資本効率向上への取り組み

- 資本コストを意識した経営の推進により、ROE、ROICともに改善傾向
- 2025年度末は、ROEは16%程度、ROICは14%程度に向上

連結

ROE 自己資本利益率（%）

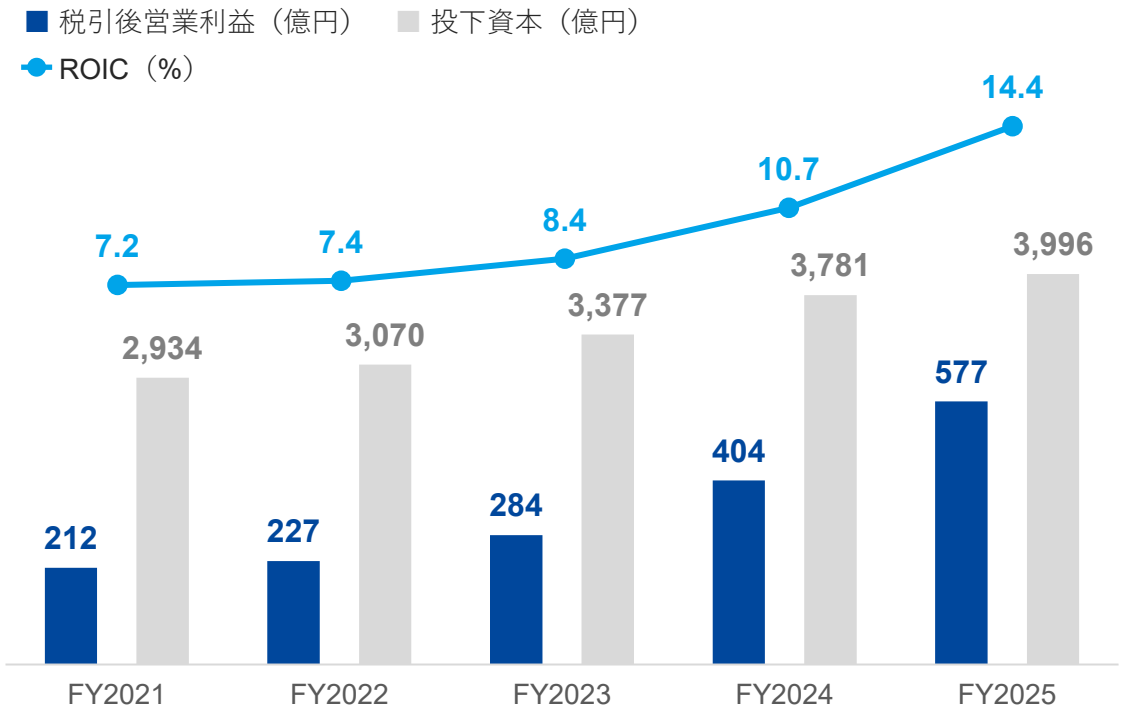
ROE = 当期純利益 ÷ 自己資本（期首期末平均）



連結

ROIC 投下資本利益率（%）

ROIC = 税引後営業利益 ÷ 投下資本（有利子負債+自己資本：期首期末平均）

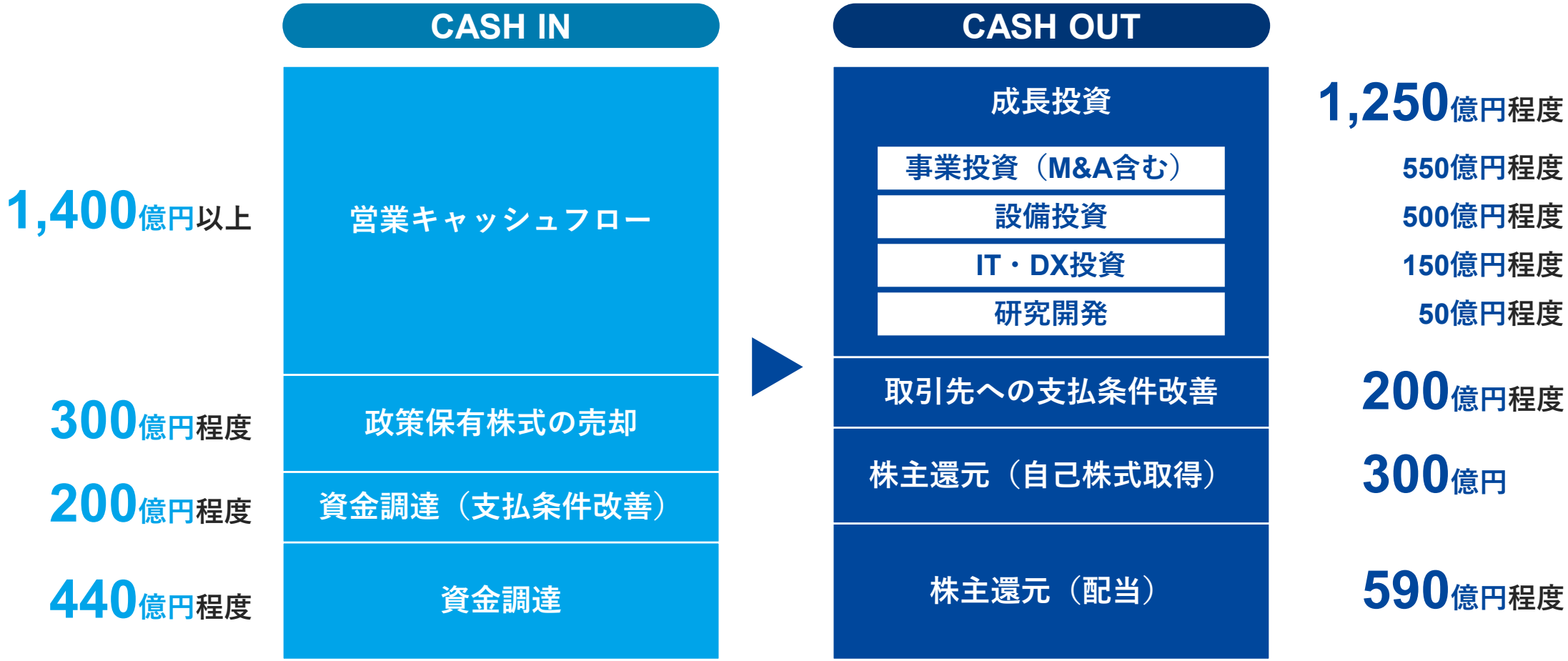


Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

資本効率向上への取り組み

■ 営業活動及び政策保有株式の売却、資金調達で獲得したキャッシュを、成長投資に振り向けることで資本効率向上を図る

▶ 2024-2026年度キャッシュアロケーション（累計）



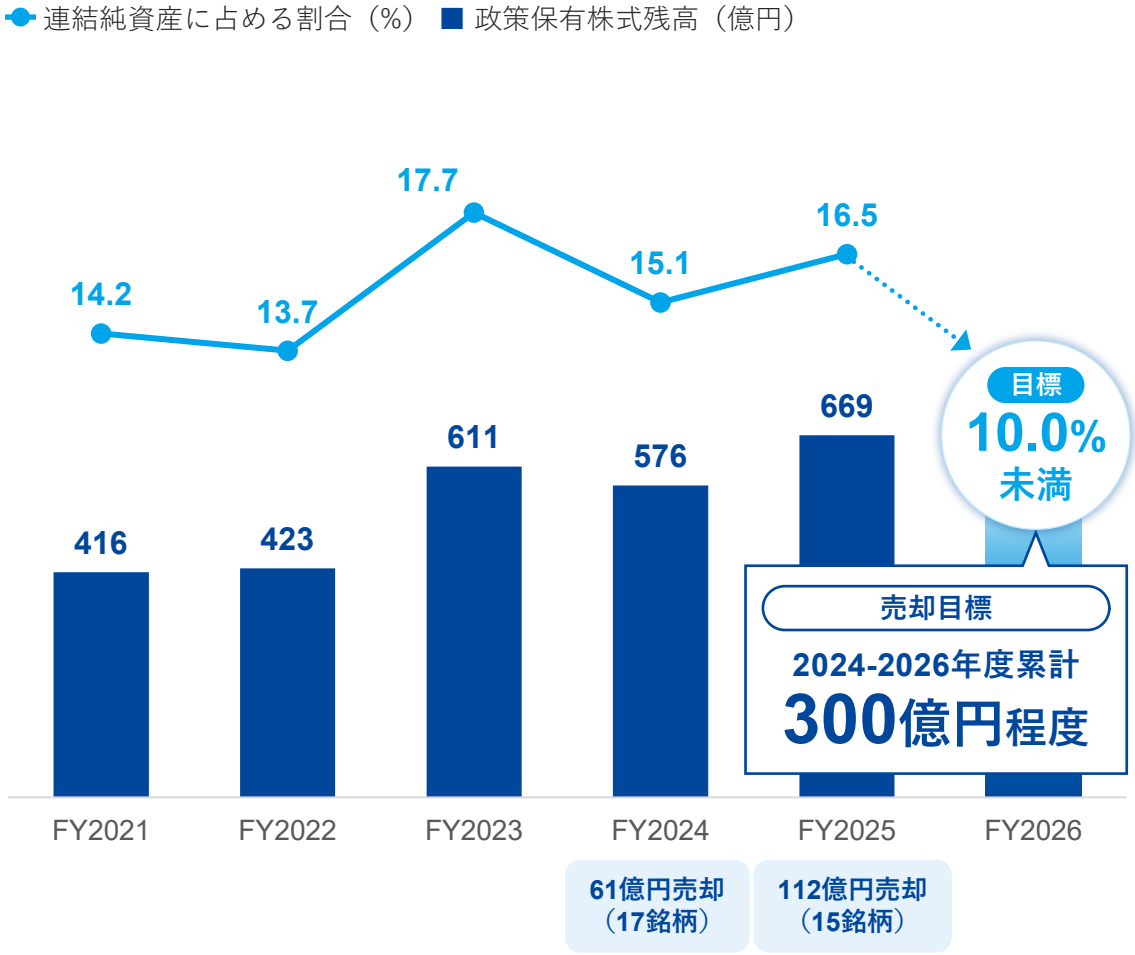
Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

資本効率向上への取り組み

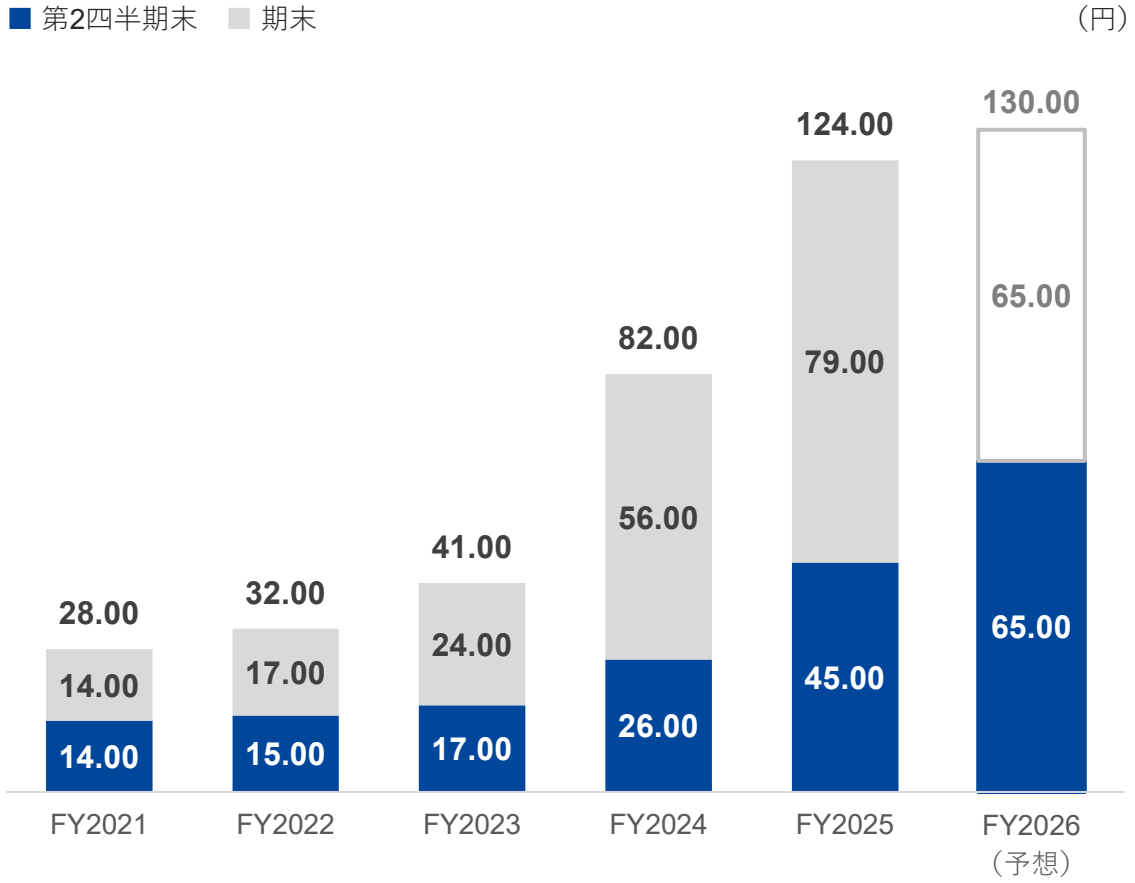
■ 政策保有株式は連結純資産の10.0%未満を目標に売却を継続

■ 中間配当・期末配当の年2回の実施と安定配当の継続を基本としつつ、配当性向40%程度を目標に株主還元を実施

▶政策保有株式残高及び連結純資産に占める割合の推移



▶配当の状況（1株当たり配当金）



Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

03

次期中期経営計画の方向性

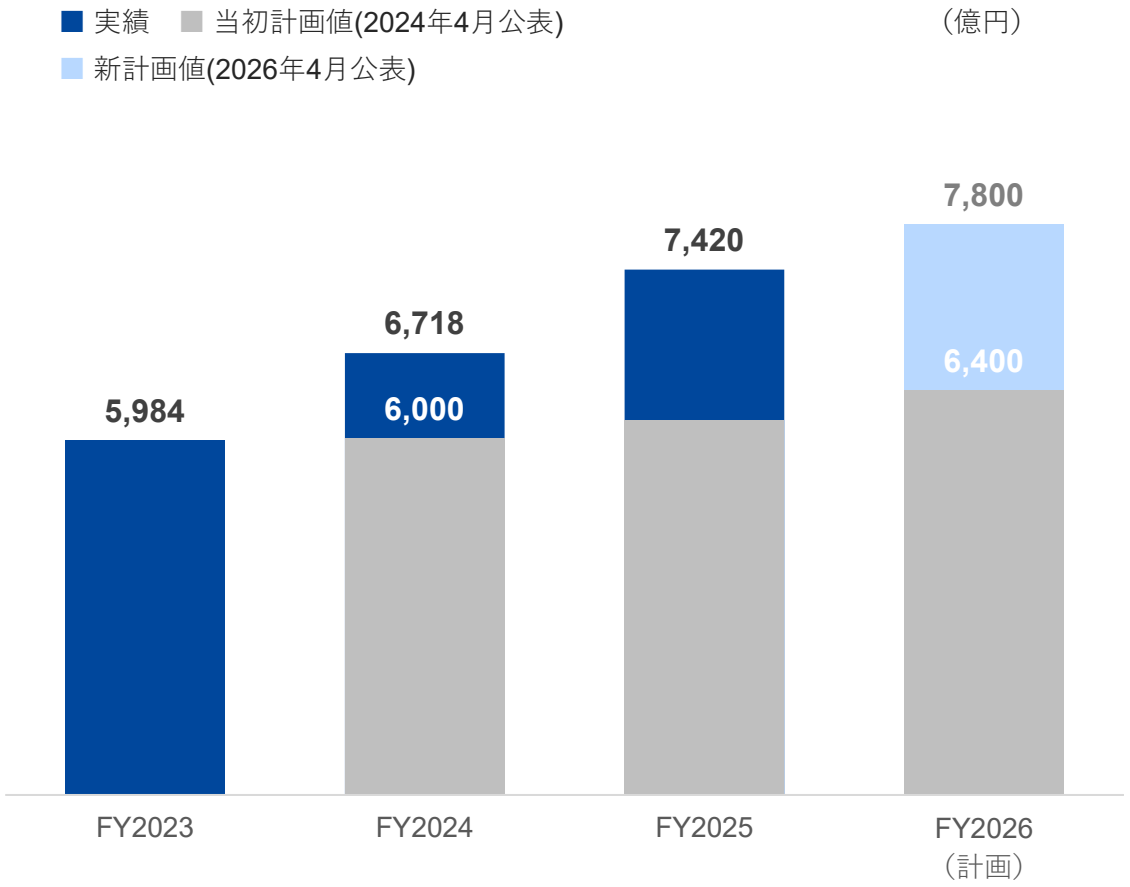
Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

2024-2026年度中期経営計画の振り返り

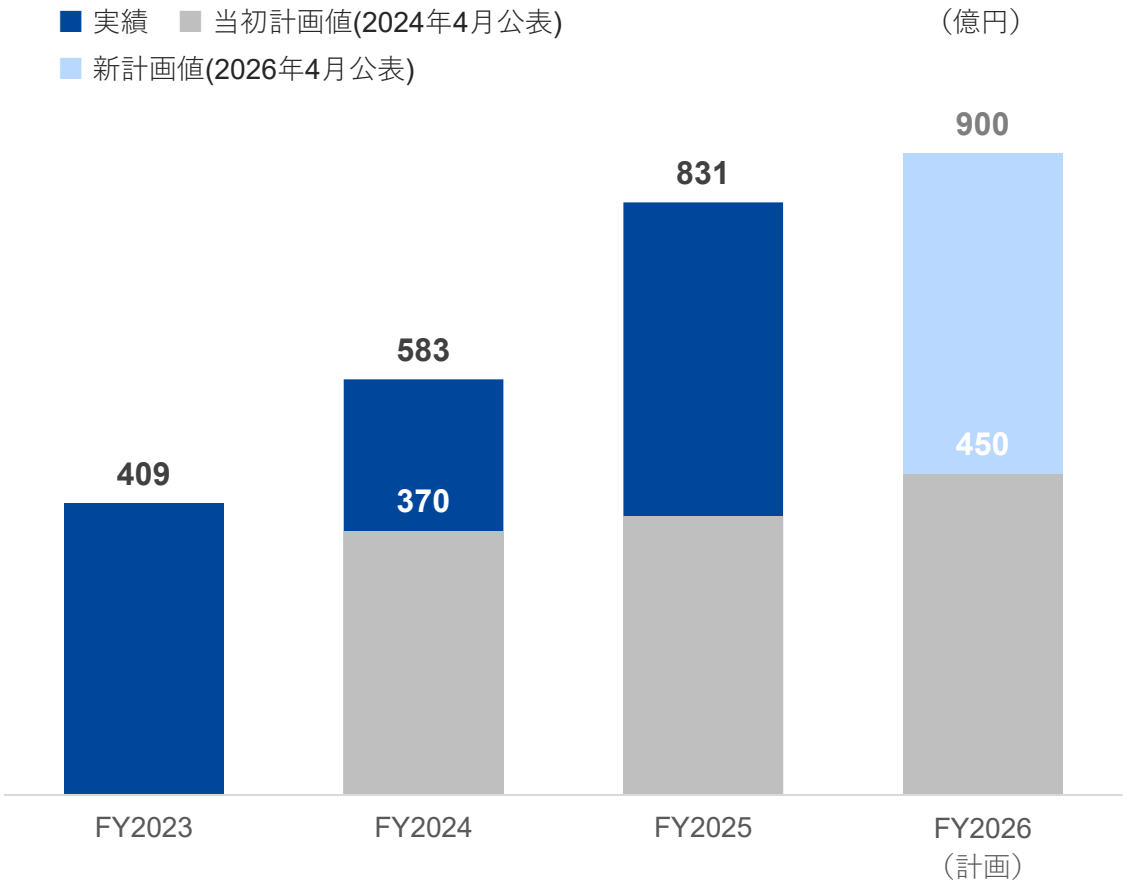
■ 2024-2026年度中期経営計画は、当初掲げた2026年度の最終年度目標を、初年度である2024年度に達成

■ 2026年4月公表の2026年度計画は、2023年度決算と比較し、連結売上高 約1.3倍、連結営業利益 約2.2倍の水準へ成長

▶ 連結売上高の推移



▶ 連結営業利益の推移



Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

次期中期経営計画（2027-2030）に向けた方向性（イメージ）

■ 旺盛な需要を確実に取り込む施工力の強化を進めるとともに、需要変動下でも利益を創出できる競争力の構築を進め、持続的な成長と企業価値向上を目指す

事業環境

機会

- 旺盛な建設投資（データセンター・半導体関連工場等）
- 建築物・インフラ設備の更新・強靭化
- 電力需要増加に伴うインフラ増強
- 脱炭素・エネルギー転換

リスク

- 景気・需要変動による競争激化
- 資機材価格・コストの上昇
- 人手不足の深刻化
- 地政学リスク・自然災害の激甚化

施工力の強化（人材）

人材ポートフォリオの最適化

- グループ・協力会社を含めた人材の確保と育成
- 協力会社との連携強化
- 多様な人材が活躍できる環境整備

生産性の向上

- 施工の省力化・効率化
- デジタル技術・AIの活用
- 業務プロセスの変革

持続的な成長と企業価値向上

競争力の構築（技術）

技術・サービスの高付加価値化

- 課題解決型の提案力強化
- 高度な技術・ソリューション提供
- 安全・品質・コスト管理の高度化

ストック型収益の拡大

- 保守・メンテナンス等の継続的サービスの拡充
- エネルギー・設備の運用・最適化
- 新たなストック型サービスの創出

資本効率に基づくキャッシュアロケーションの最適化

成長のロジック

収益力の向上（安定的なキャッシュ創出）：施工力の強化 → 競争力の構築

資本効率の向上

→ 持続的な成長と企業価値向上

注：本スライドは、次期中期経営計画の策定に向けた現時点での成長の方向性および取り組みのイメージを示したものであり、確定したものではありません

Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

04 Appendix

Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

企業情報（2026年9月30日現在）

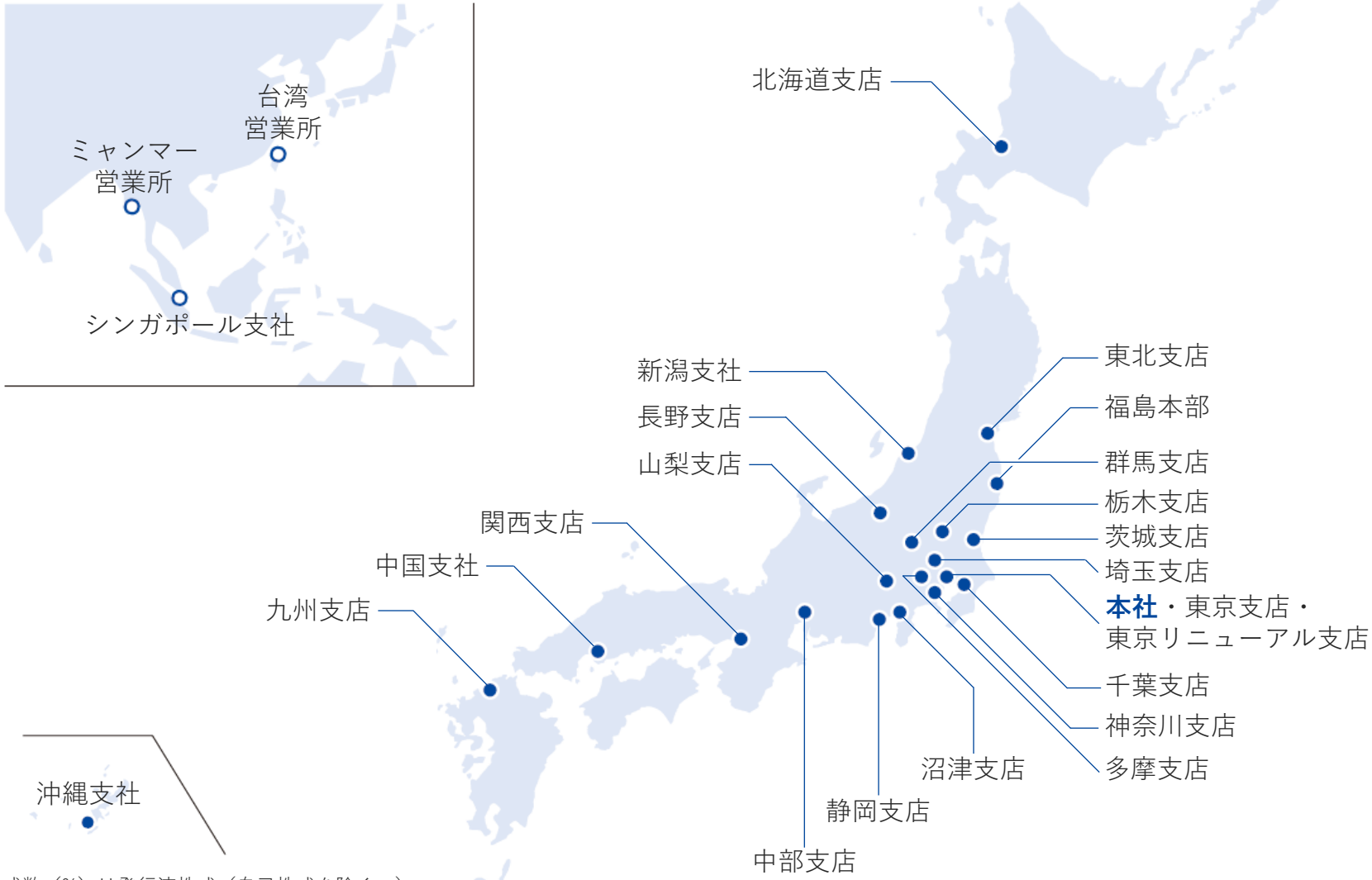
会社概要

会社名	株式会社 関電工
会社設立	1944年9月1日
本社	〒108-8533 東京都港区芝浦4-8-33
資本金	10,264百万円

大株主の状況

氏名又は名称	所有株式数*(%)
東京電力パワーグリッド㈱	34.46
日本マスタートラスト信託銀行㈱（信託口）	8.12
㈱日本カストディ銀行（信託口）	5.60
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	3.80
関電工グループ従業員持株会	2.37
THE CHASE MANHATTAN BANK, N. A. LONDONSECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT	2.05
JPモルガン証券㈱	1.78
JP MORGAN CHASE BANK 385781	0.90
BBH LUX FOR BROCK MILTON CAPITAL UCITS SICAV - BMC GLOBAL SELECT FUND	0.81
ゴールドマン・サックス証券㈱　BNYM	0.73

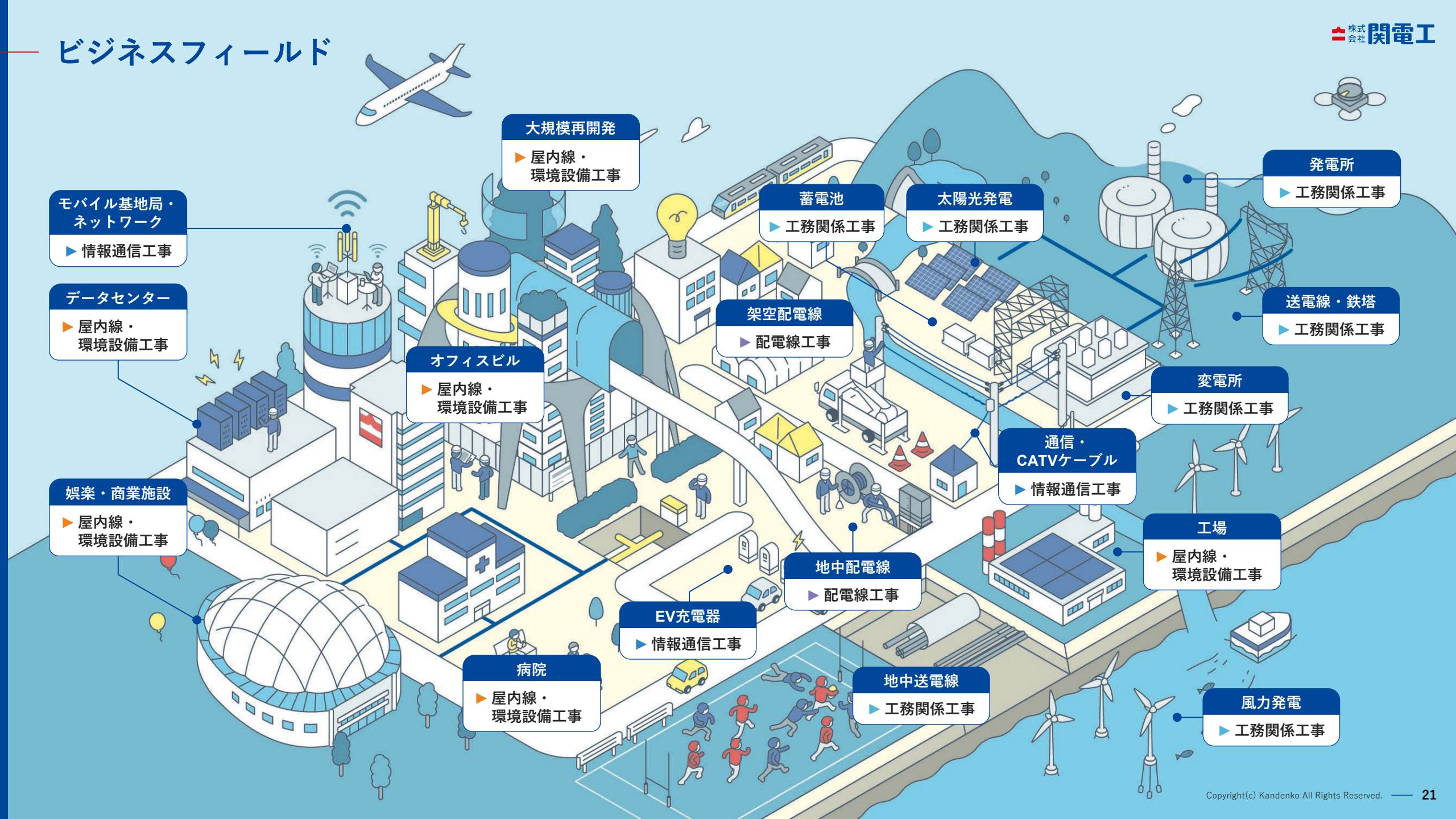
ネットワーク　● 国内事業所　○ 海外事業所



*所有株式数（%）は発行済株式（自己株式を除く。）の総数に対する所有株式数の割合を示しています

Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

ビジネスフィールド



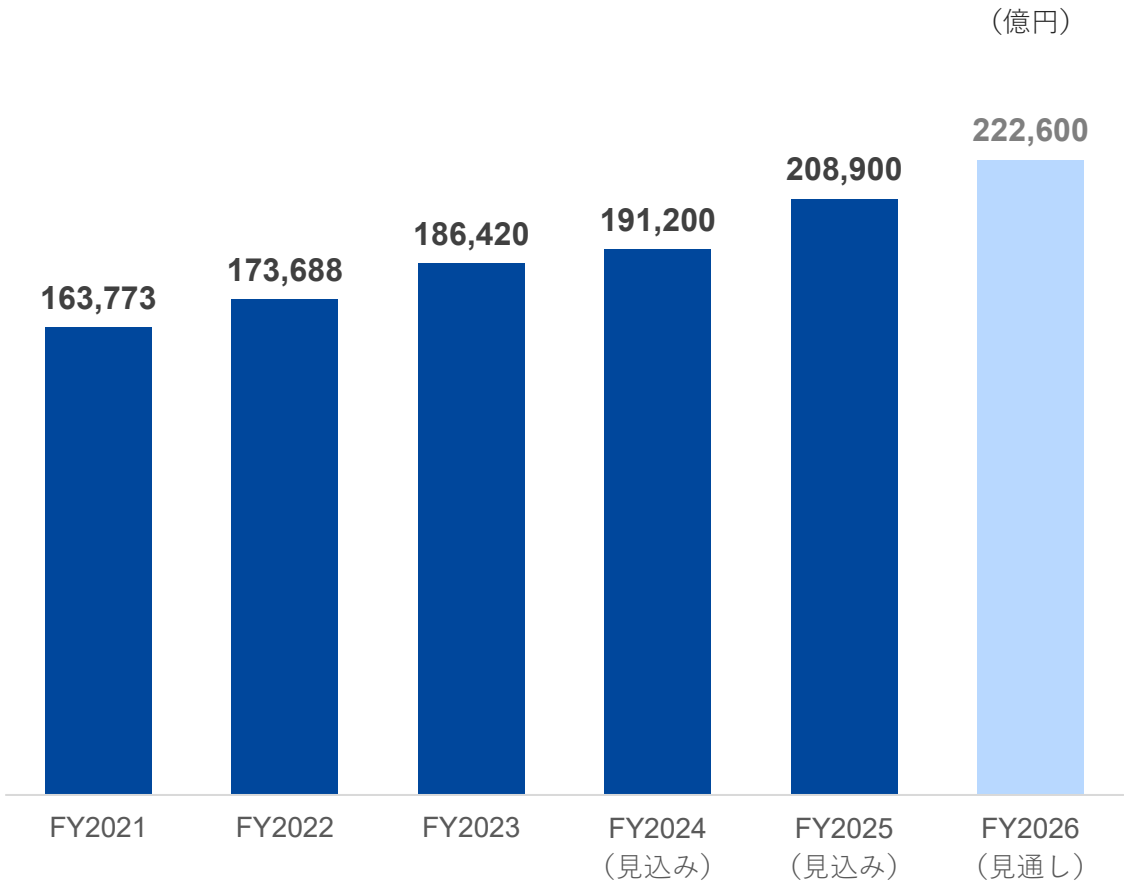
Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

当社を取り巻く環境

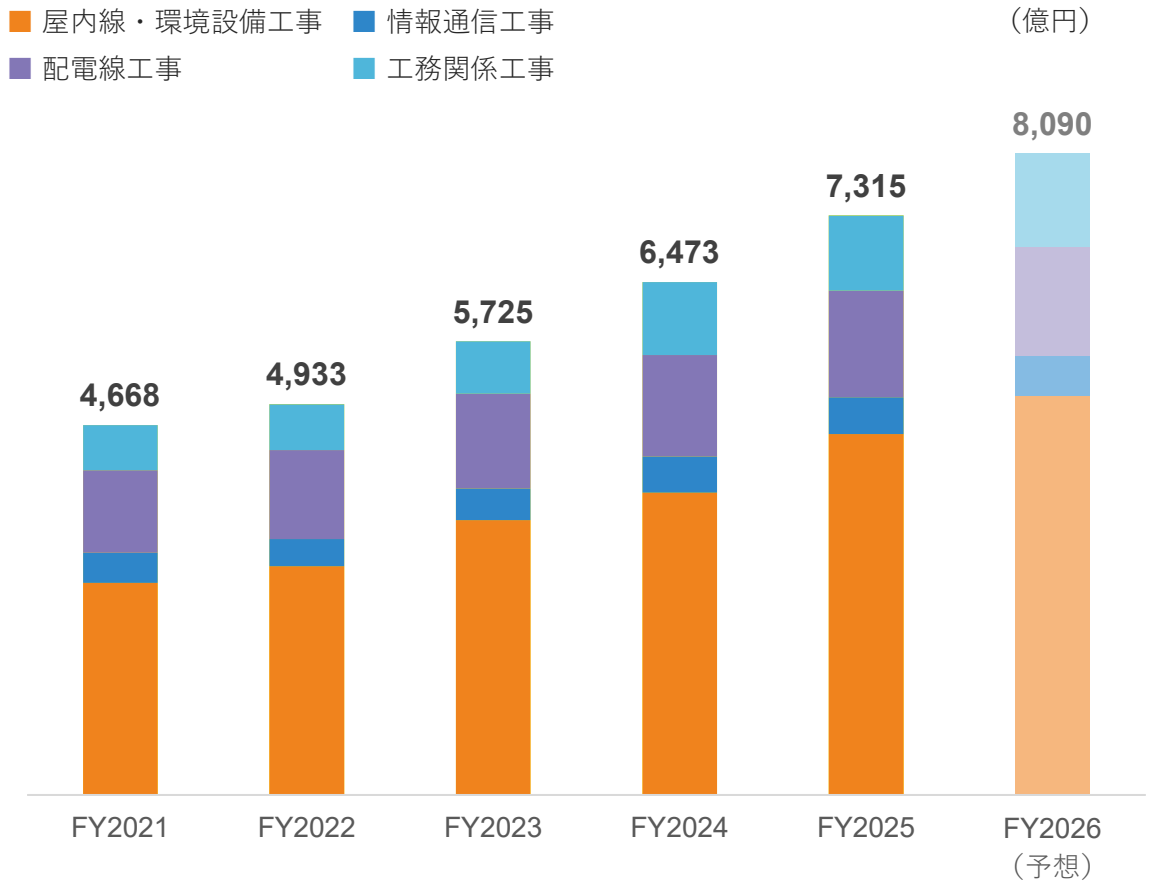
■ 国内における民間非住宅建設投資は増加傾向

■ 当社の新規受注高は屋内線・環境設備工事を中心に大幅に増加

▶ 国内の民間非住宅建設投資（名目値）



▶ 当社のセグメント別新規受注高（単体）



出典：国土交通省「建設投資見通し」2026年8月より当社作成

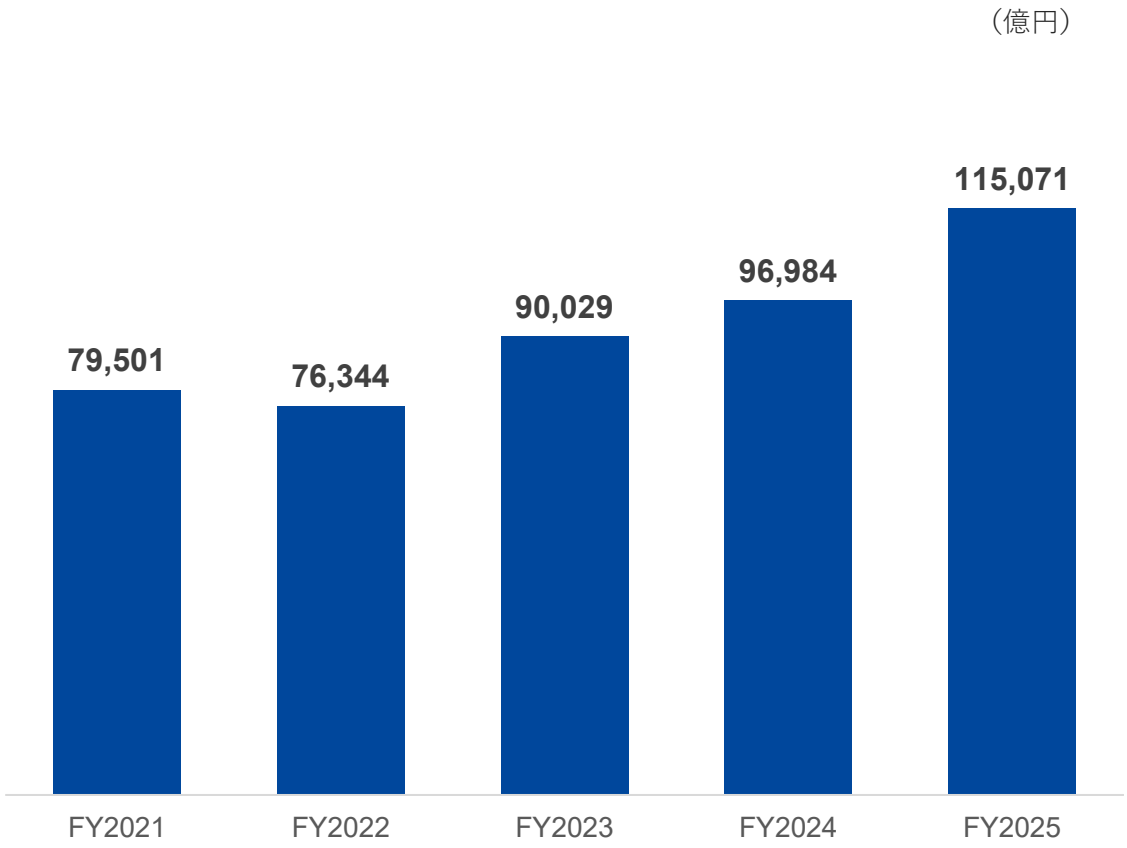
Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

当社を取り巻く環境

■ 非住宅建築物におけるリニューアル工事需要は増加傾向にあり、特に首都圏のオフィスを中心に築古物件が増加

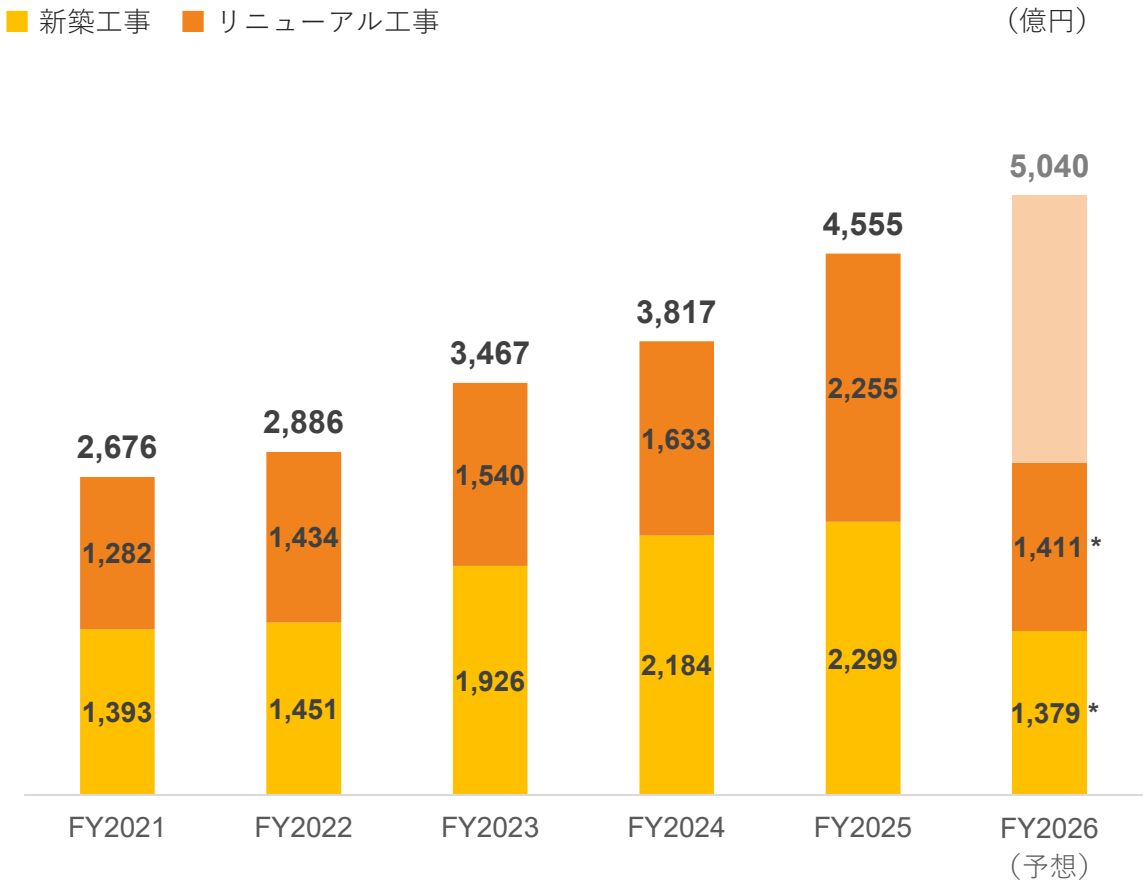
■ 当社の屋内線・環境設備工事におけるリニューアル工事の受注も増加傾向

▶ 非住宅建築物におけるリニューアル工事の市場



出典：国土交通省「建築物リフォーム・リニューアル調査」2026年6月より当社作成

▶ 当社の新築・リニューアル別の新規受注高（屋内線・環境設備工事）



*FY2026.2Qまでの実績

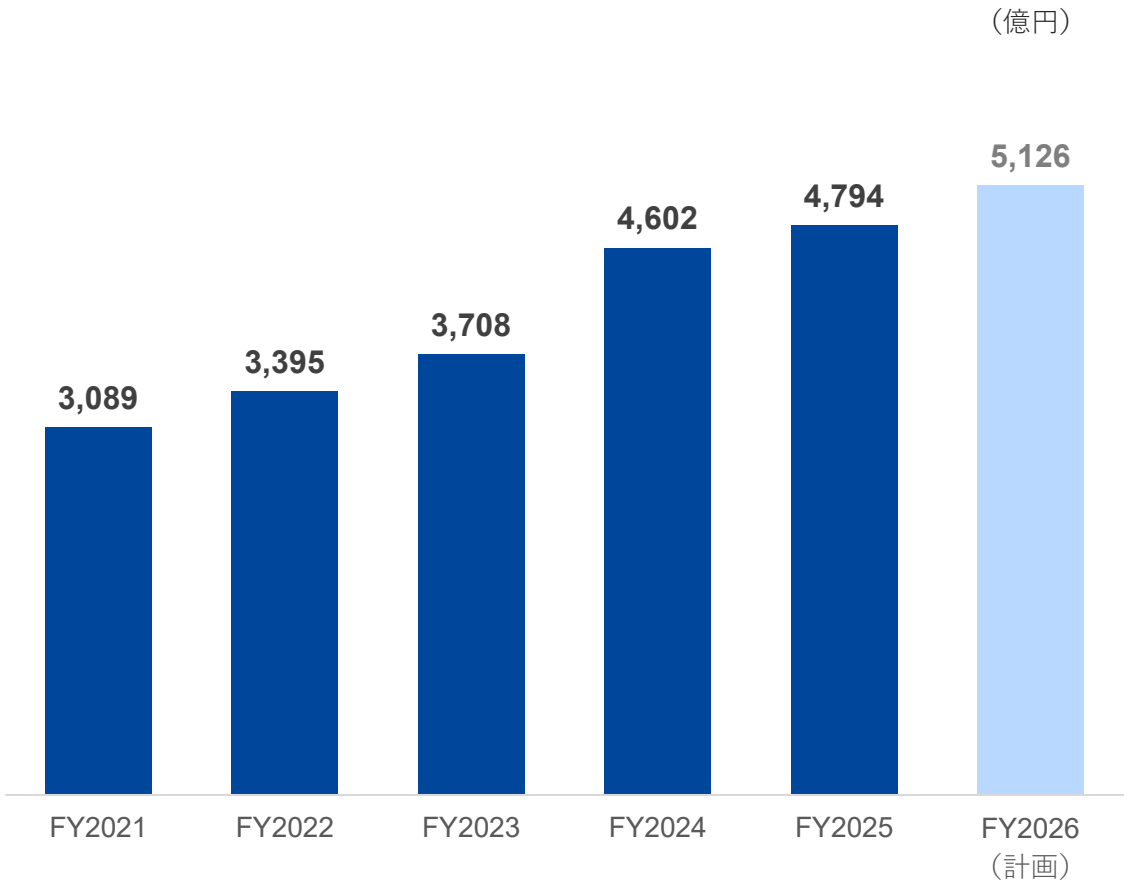
Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

当社を取り巻く環境

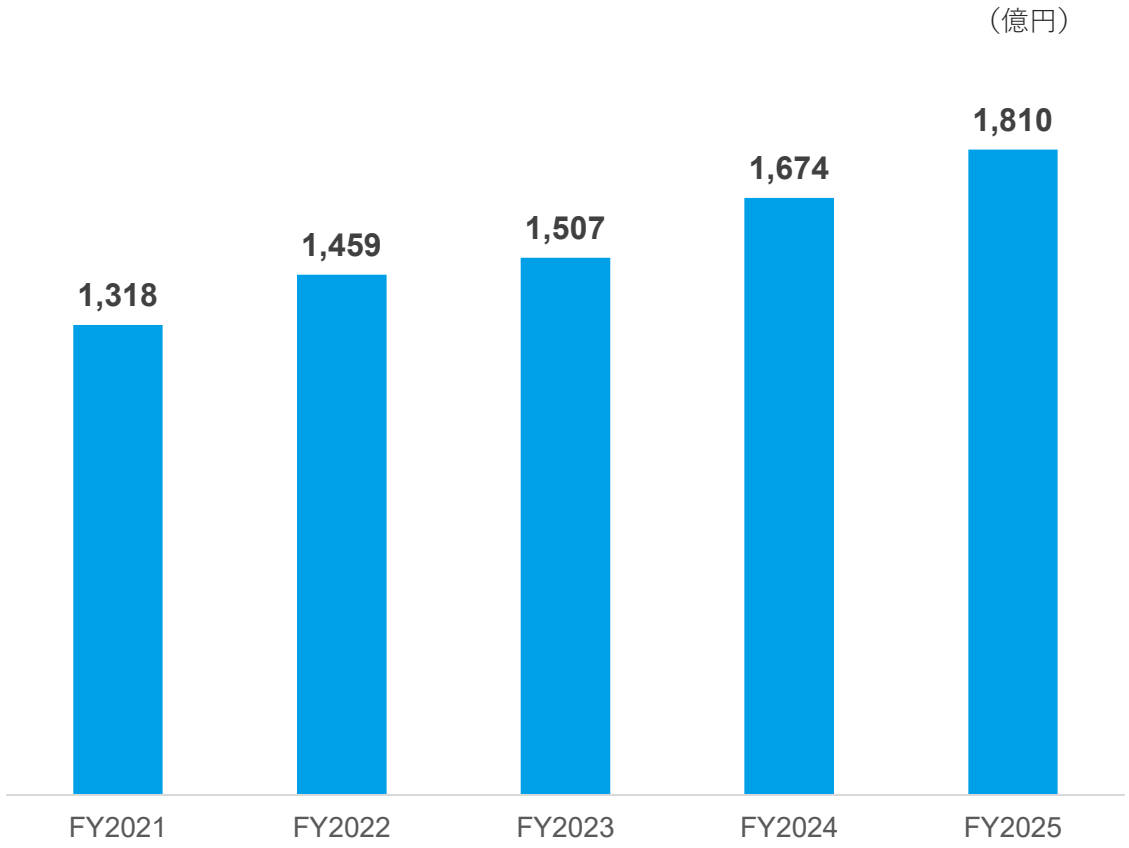
■ 電力設備の老朽化・電力需要の拡大といった背景から、東京電力PG㈱の設備投資は増加基調

■ 当社の東京電力グループ向け完成工事高も堅調に推移

▶ 東京電力PG㈱の設備投資額の推移



▶ 当社の東京電力グループ向け完成工事高の推移（連結）



出典：東京電力パワーグリッド株式会社「有価証券報告書」より当社作成

Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

当社を取り巻く環境

■ 政府は官民投資の集中対象として17の戦略分野を選定

■ 成長市場における設備投資の増加に伴い、当社の受注機会も増加

▶ 日本成長戦略における17の戦略分野

分野	
AI・半導体	合成生物学・バイオ
デジタル・サイバーセキュリティ	創薬・先端医療
情報通信	資源・エネルギー安全保障・GX
量子	フュージョンエネルギー
防衛産業	防災・国土強靭化
航空・宇宙	港湾ロジスティクス
海洋	フードテック
造船	コンテンツ
マテリアル（重要鉱物・部素材）	

出典：内閣官房「日本成長戦略」2026年7月より当社作成

▶ 当社の事業への影響（例）

AI・半導体	• データセンター・半導体関連 • 電力需要増加に伴うインフラ増強
デジタル・ サイバーセキュリティ	• ネットワーク設備や制御・監視設備 • 通信設備や監視システムの高度化
情報通信	• 通信基地局等通信インフラ • 次世代光通信網
資源・エネルギー 安全保障・GX	• 再エネ設備・系統連系 • 脱炭素・省エネ需要
防災・国土強靭化	• 防災・減災対応 • 老朽化インフラ更新

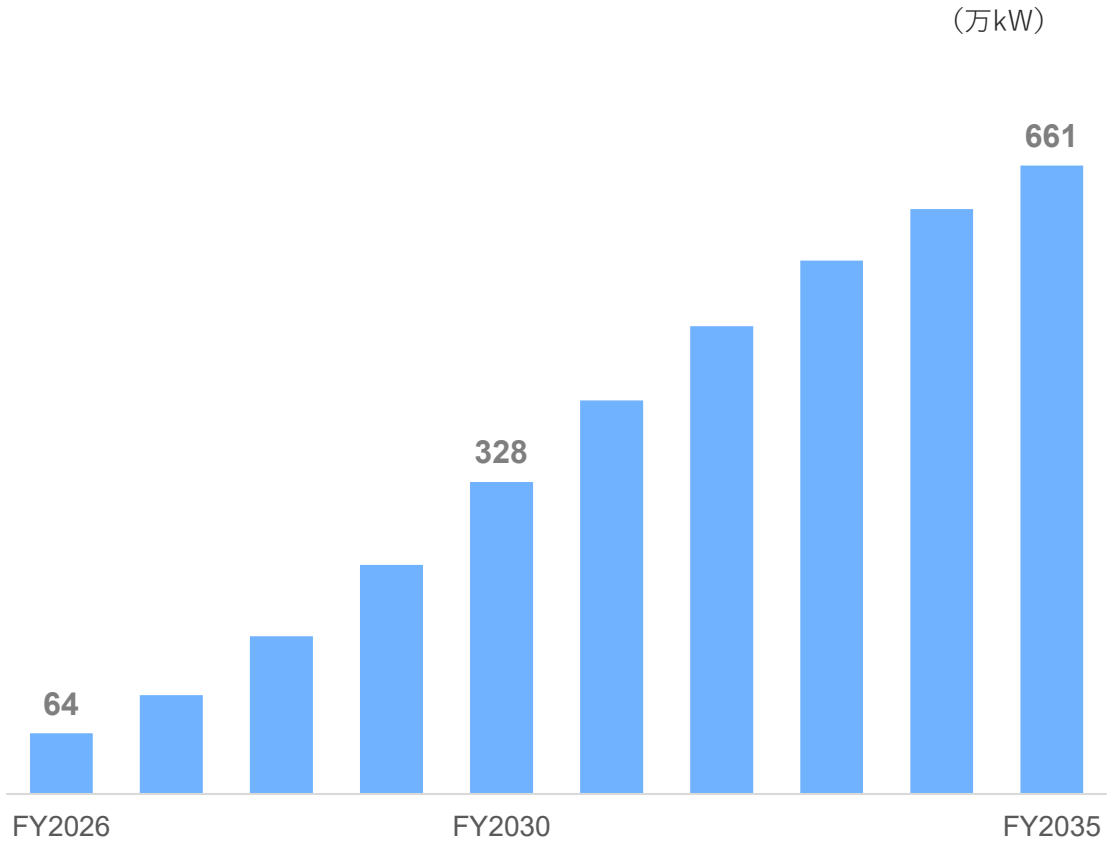
Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

当社を取り巻く環境

■ データセンターの新増設に伴い、日本国内における電気設備需要は大幅に増加する見込み

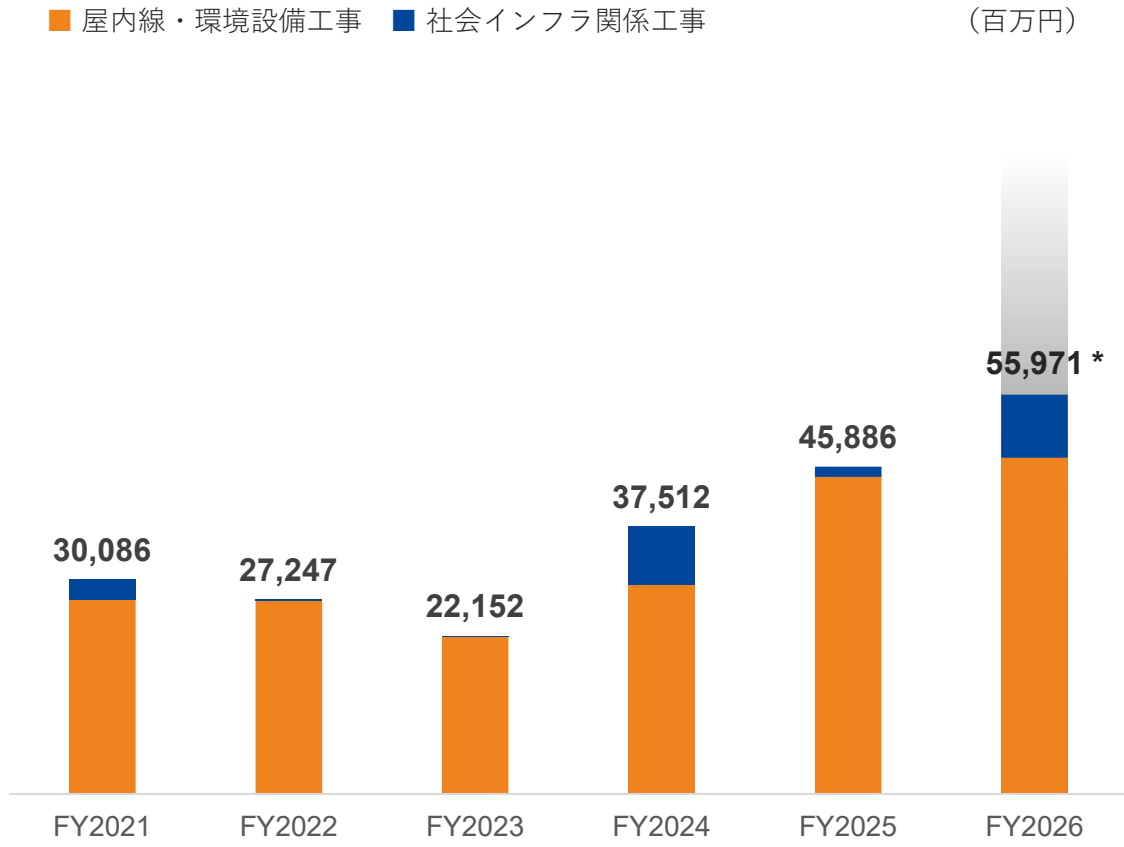
■ 当社のデータセンター関連工事の新規受注高は大きく増加

▶ データセンターの新増設に伴う電力需要の見通し



出典：電力広域的運営推進機関「全国及び供給区域ごとの需要想定」（2026年1月）より当社作成

▶ 当社のデータセンター関連新規受注高の推移（単体）



*FY2026.2Qまでの実績

Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

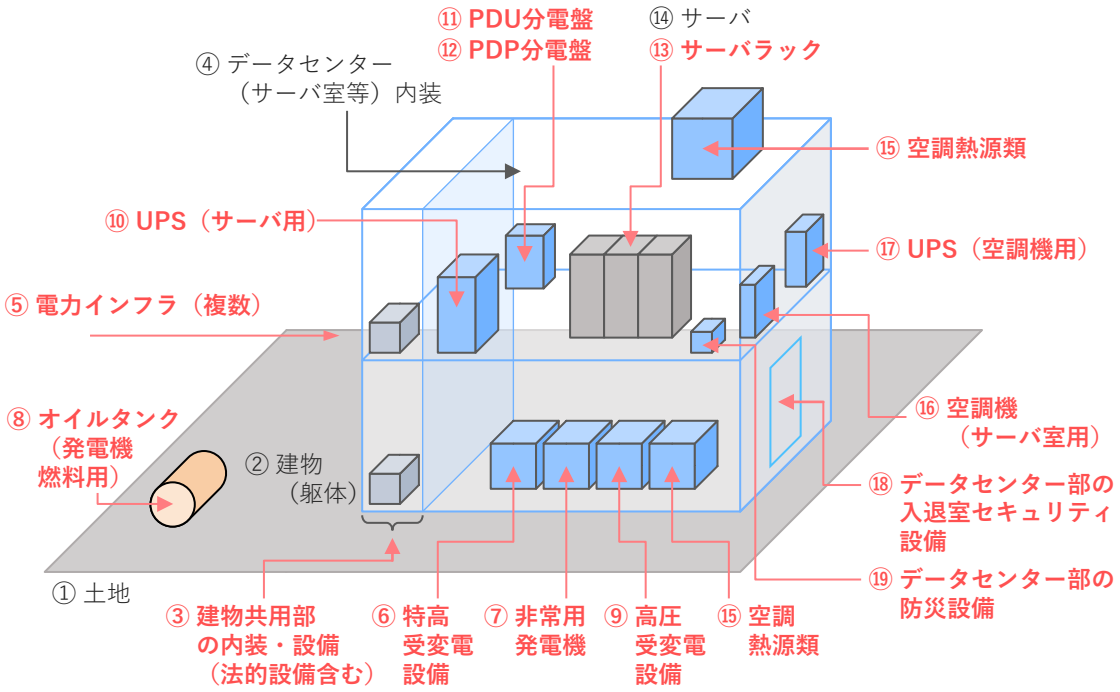
データセンター関連工事における当社の強み

■ 電気設備を中心にデータセンターにおける幅広い施工範囲をカバー

■ 当社は東京電力管内における変電所建設工事からデータセンター施設への電源接続まで一貫して対応が可能

▶ データセンターにおける当社の施工範囲

■ 当社の施工範囲



▶ データセンター関連工事における当社の強み

1	バックアップ用発電機等安定した電源供給	電力の安定性確保の観点から必要となる電源の二重化、発電機の設置等周辺領域へのソリューションを保有
2	変電所とDCをつなぐ系統接続工事	高圧、特別高圧の電力が必要になる系統接続工事や地中線工事において、東京電力管内では当社が大部分を受注
3	東京電力による新規変電所の建設工事	高度な技術が求められる特別高圧変電所の建設工事において、東京電力との緊密な連携が可能

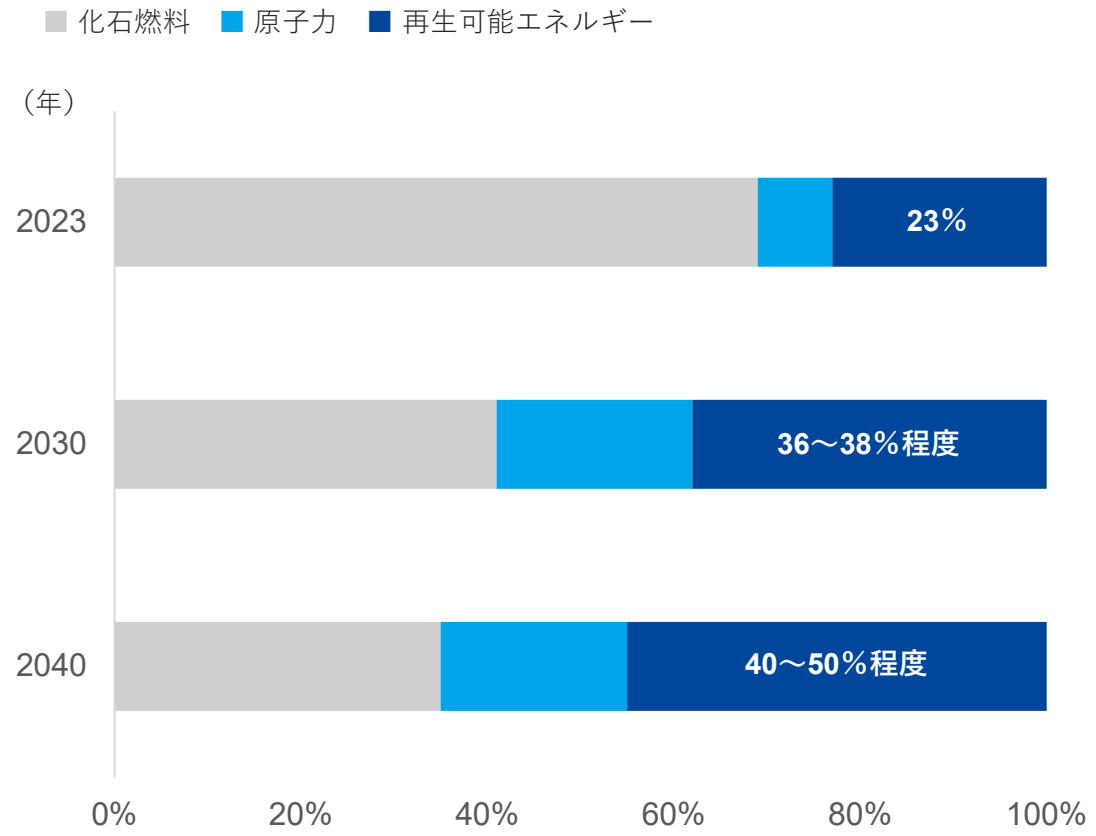
Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

当社を取り巻く環境

■ 2050年カーボンニュートラルの実現に向け、再生可能エネルギー関連の工事需要拡大が見込まれる

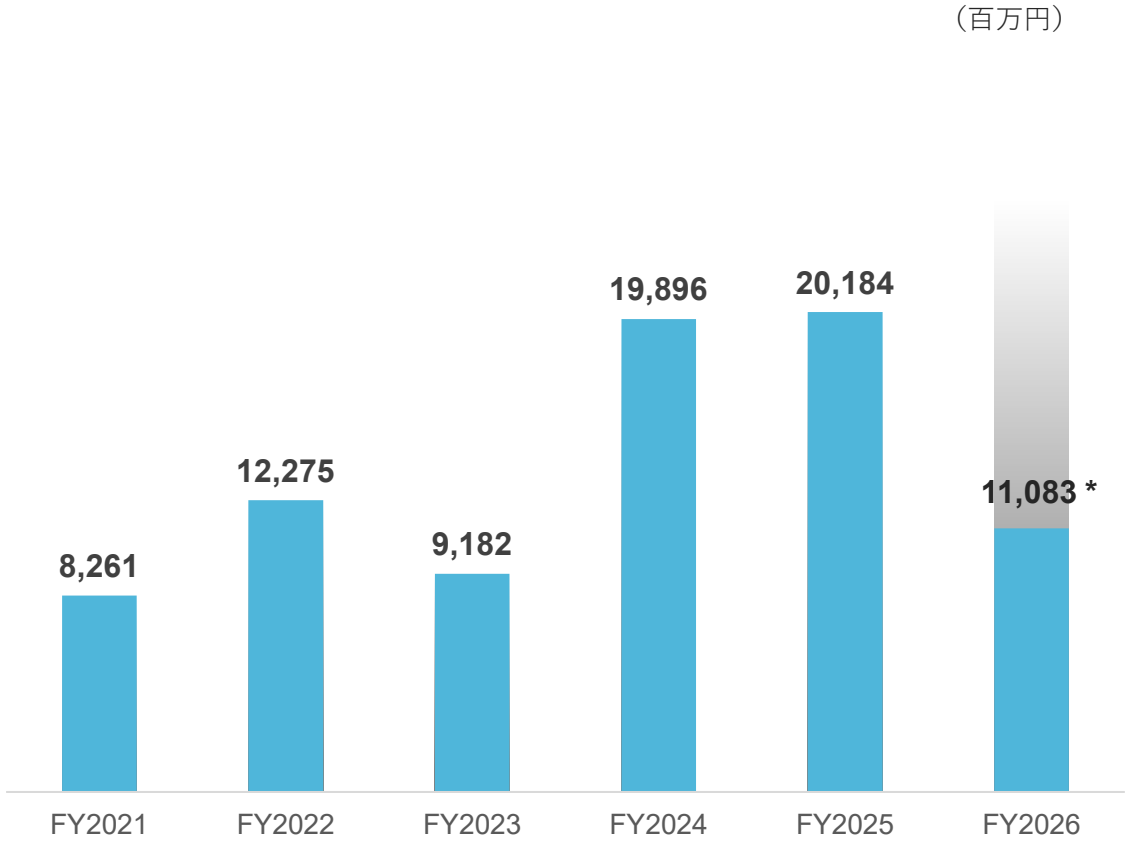
■ 当社の再生可能エネルギー関連工事の新規受注高も堅調に推移

▶ 電源構成の変化



出典：資源エネルギー庁「エネルギー基本計画の概要」（2021年10月、2025年2月）より当社作成

▶ 当社の再生可能エネルギー関連新規受注高の推移（工務関係工事）



*FY2026.2Qまでの実績
注：FY2023より集計方法を変更

Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

当社の風力発電所関連工事の実績

■ 日本における全国の風力発電所の約4分の1に当社が関与

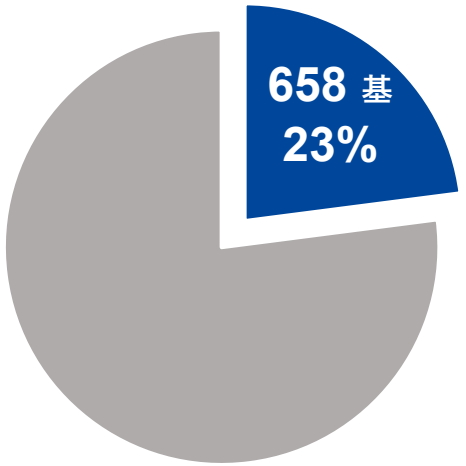
■ 当社は風力発電所の企画・提案、設計・エンジニアリング、工事施工、O&Mまで一貫して対応が可能

▶ 当社の風力発電所関連工事の実績

エリア	件数	基数	発電容量（MW）
北海道	16	237	759.1
東北	27	321	932.9
関東	13	38	51.6
中部	11	52	89.7
近畿	1	1	1.5
中国	1	4	0.004
九州	1	3	6.9
その他	2	2	0.015
合計（全国）	72	658	1,841.7

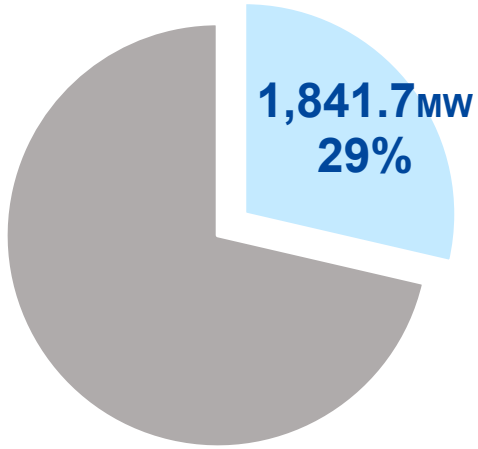
▶ 全国の風力発電所における当社の貢献度（2025年12月末時点）

風車基数



全国	関電工
2,866 基	658 基

発電容量



全国	関電工
6,434.2 MW	1,841.7 MW

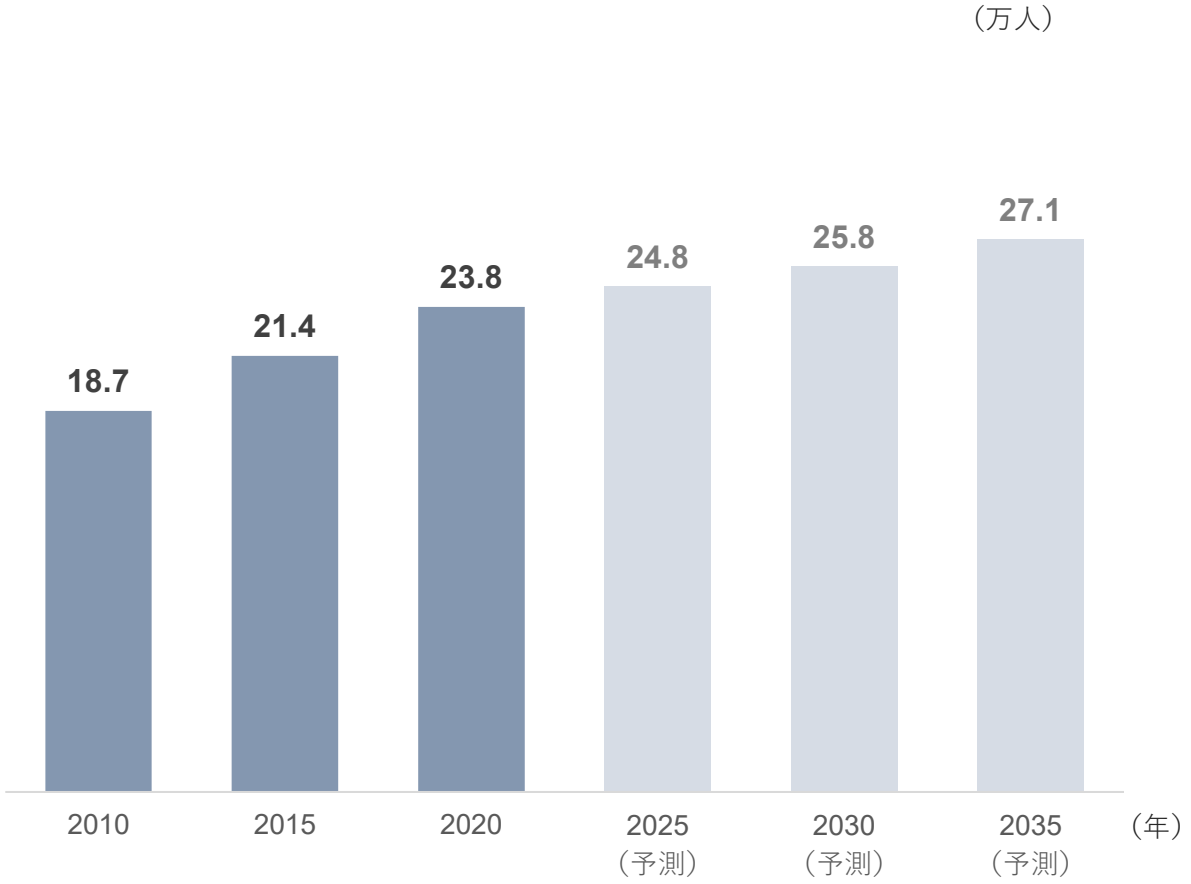
出典：一般社団法人日本風力発電協会「2025年12月末時点日本の風力発電の累積導入量」（2026年2月）より当社作成

Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

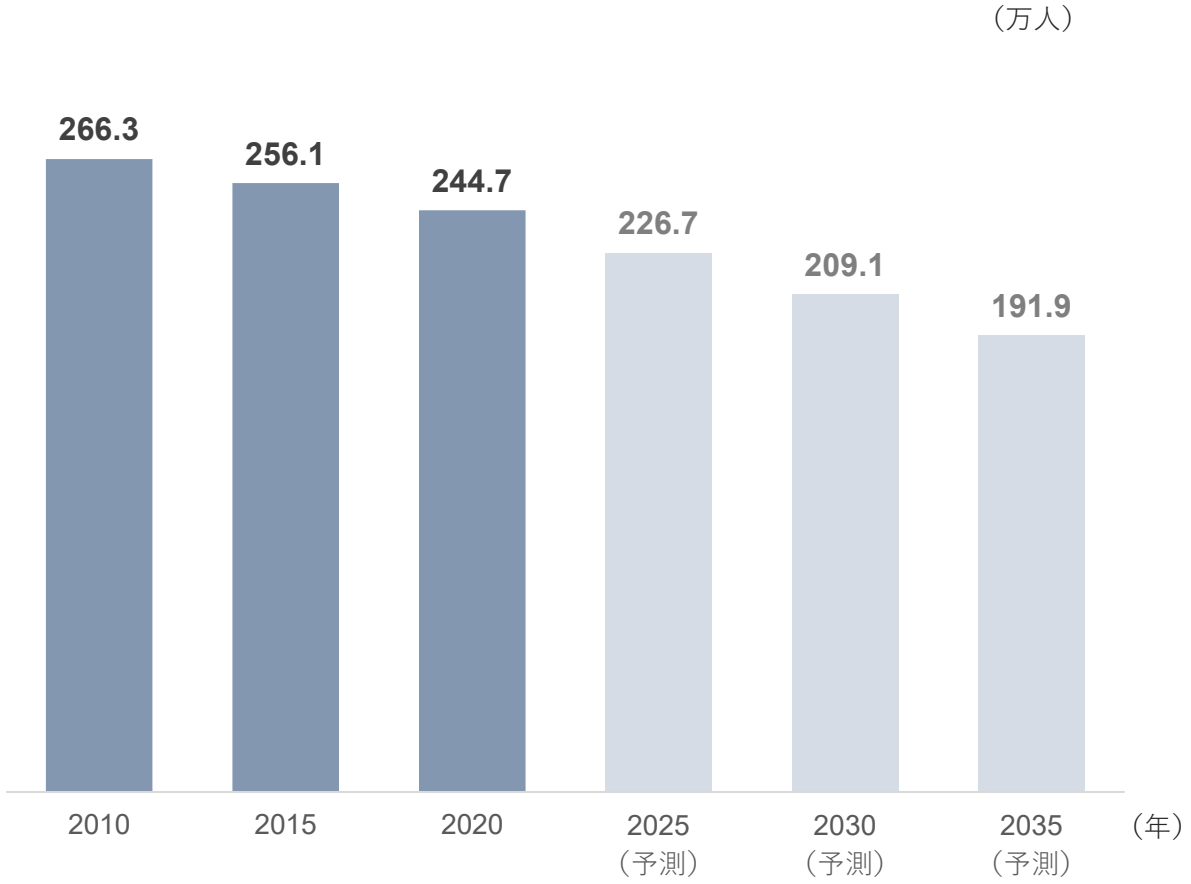
当社を取り巻く環境

■ 国内における建設業就業者数は減少傾向にあり、特に技能労働者については今後も大幅な減少が懸念される

▶ 建設業技術者数の将来推計



▶ 建設技能労働者の将来推計



出典：一般財団法人建設経済研究所「建設経済レポートNo.77『建設業従事者数の将来人数推計と需給ギャップ分析』」（2025年3月）より当社作成

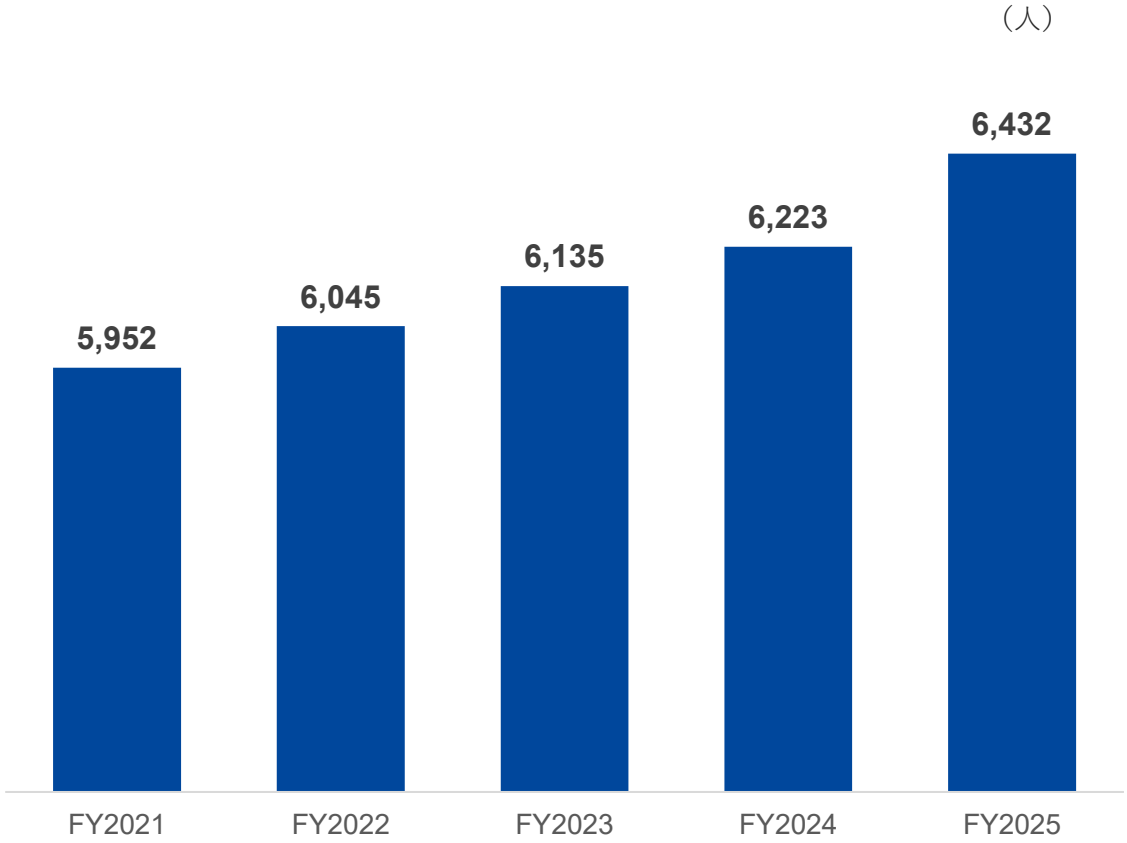
Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

人材確保と生産性向上

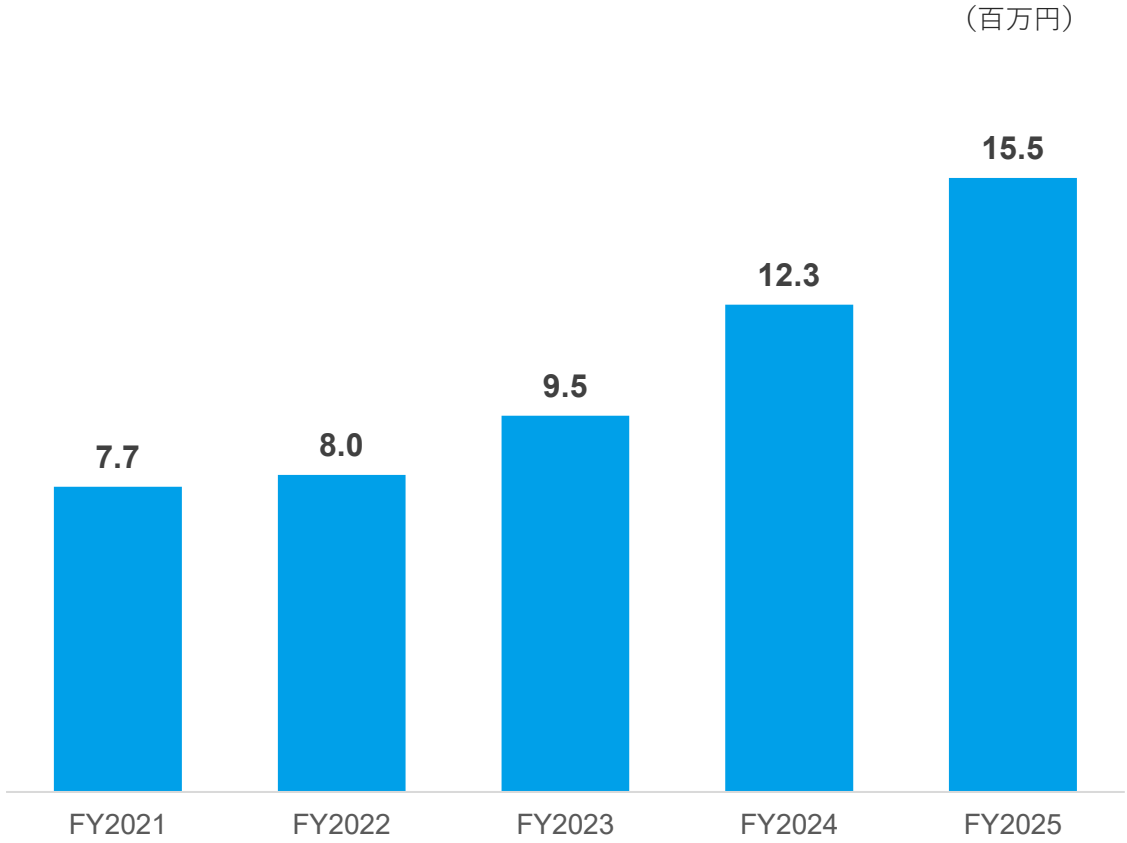
■ 更なる成長の実現に向けては、旺盛な需要を確実に捉えるための要員×生産性による施工力の確保が重要

■ 当社の技術職・技能職の人員数は着実に増加しており、一人当たり完成工事総利益も順調に改善

▶当社の技術職・技能職の人員数の推移（単体）



▶技術職・技能職一人当たり完成工事総利益の推移（単体）



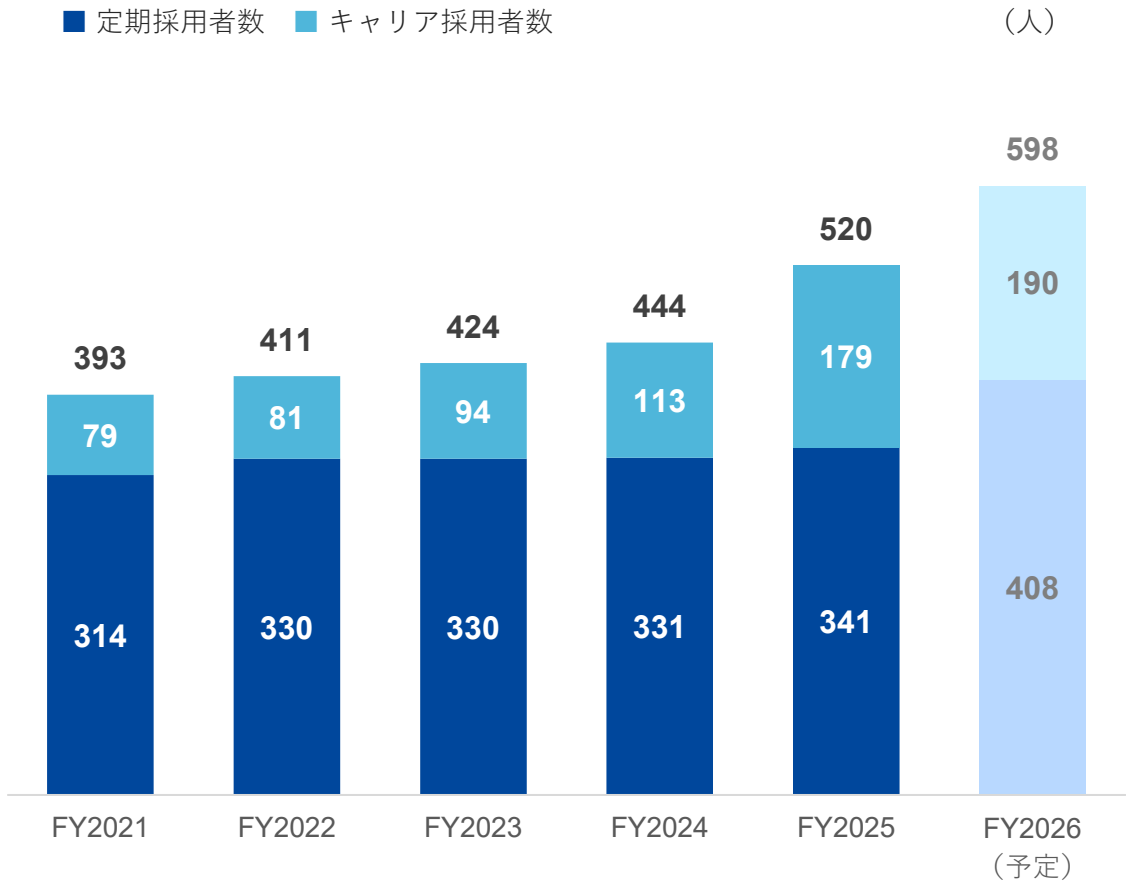
Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

人材確保に向けた取り組み

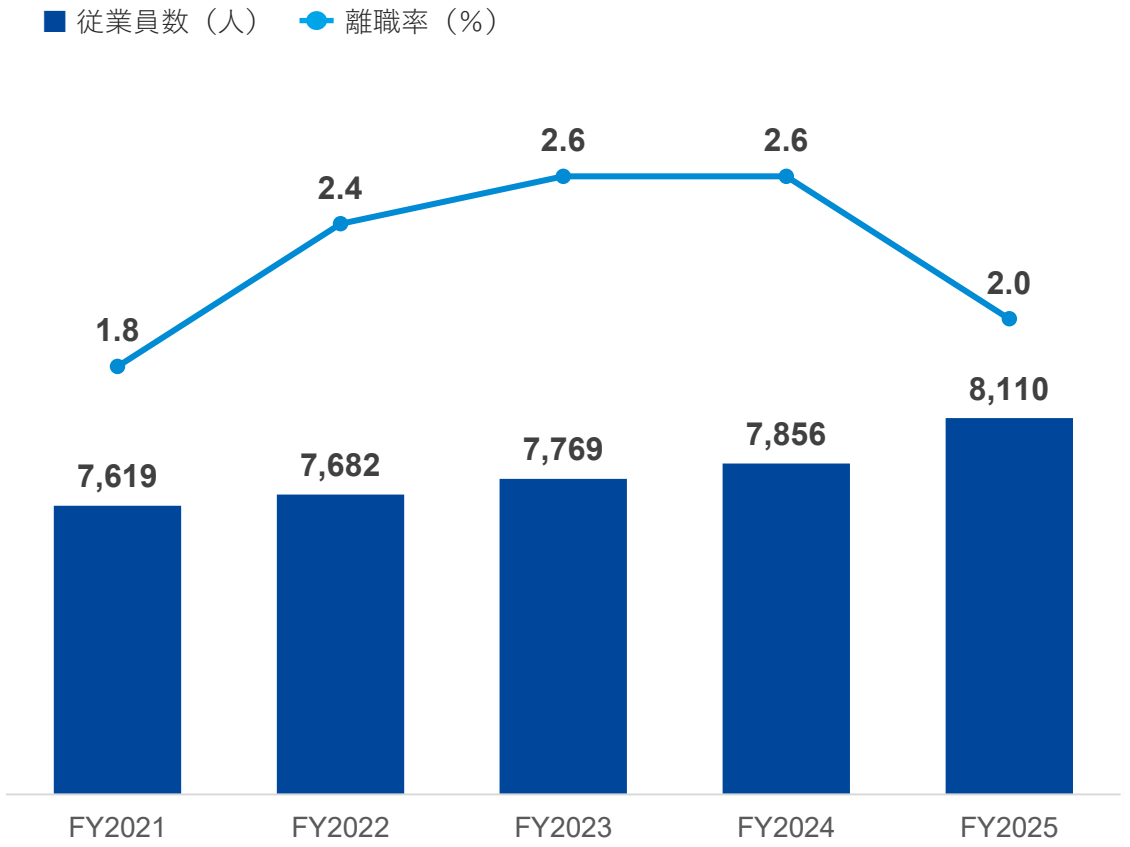
■ 建設業就業者数は減少傾向にある一方、当社は順調に採用を拡大

■ 従業員エンゲージメント向上・職場環境改善に向けた取り組みの結果、2025年度は離職率も低下

▶ 当社の採用者数の推移（単体）



▶ 当社の従業員数と離職率の推移（単体）

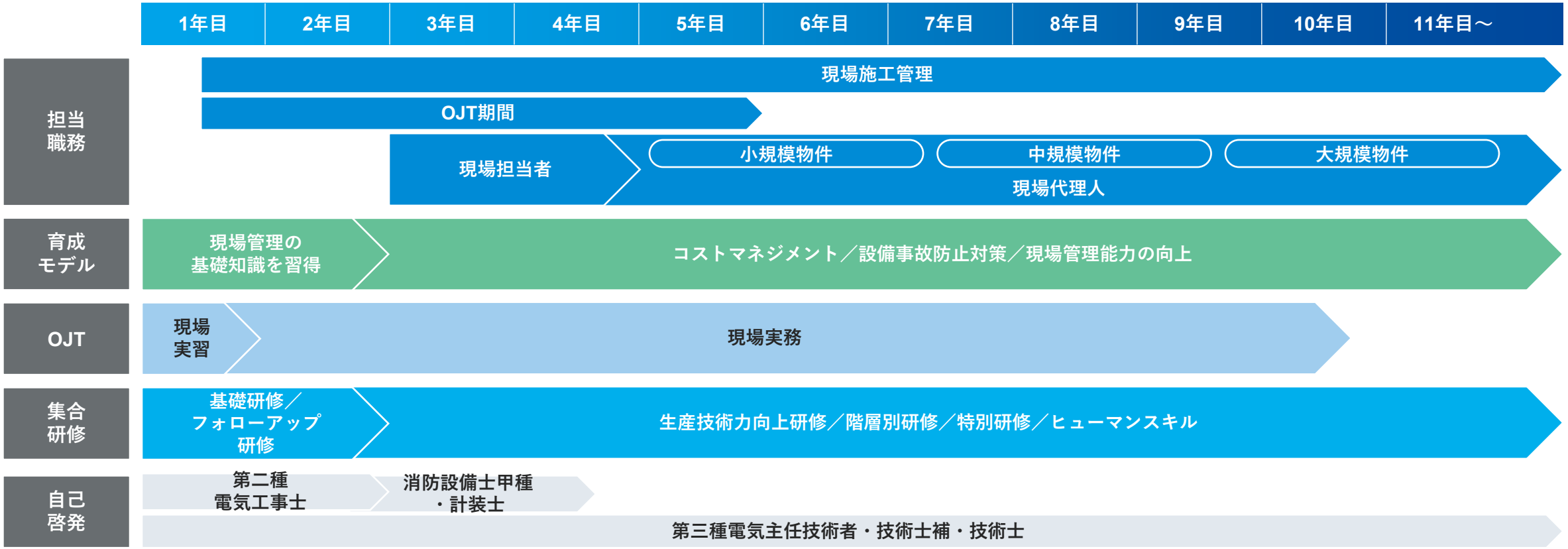


Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

人材確保に向けた取り組み

■ 部門・職種ごとに人材育成ロードマップを策定し、計画的な人材育成を実施

▶ 人材育成ロードマップ（例：屋内線・環境設備工事 技術職）

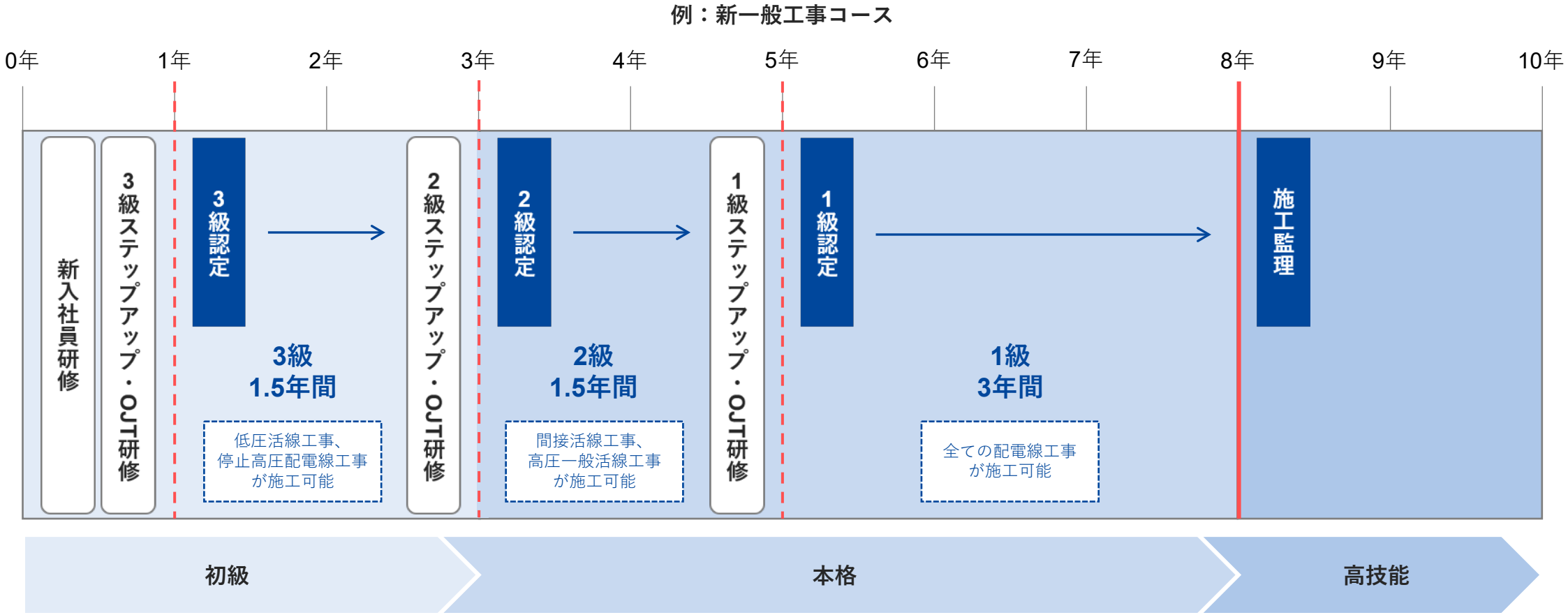


Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

人材確保に向けた取り組み

■ 配電電工として全ての架空配電線工事を行うためには、約8年の経験が必要とされるため、当社では技術認定制度を導入して計画的な人材育成を実施

▶ 配電工事会社技術認定制度（例：架空配電線工事 技能職）



Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

人材確保に向けた取り組み

■ 重要なパートナーである協力会社との連携を強化し、人材育成をはじめ様々な支援を実施

▶ 協力会社とのパートナーシップ強化に向けた取り組み

01



需要の増加に対応するための施工体制の構築

- 協力会社の新規開拓とネットワーク拡大
- 受注見通しに基づく計画的な施工体制の確保

02



適正な取引関係

- 労務費を含む適正な工事価格の確保や支払条件の改善
- 工事情報の早期共有

03



パートナー企業との共存共栄の実現

- 安全・品質の確保
- 人材採用･育成支援制度の拡充
- パートナーシップ構築宣言の遂行

- 2026年4月にパートナーシップ推進部を新設
- 協力会社との連携を強化し、ともに持続的な成長の実現を目指す

Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

生産性向上に向けた取り組み

■ 現場で行う工程のうち、加工と組立のプロセスをオフサイトのプレハブ化工場に集約

■ 現場でなければ出来ない固有の業務以外は、バックオフィスに業務を集約する分業化を実施

▶ プレハブ化の推進

- 現場で行う加工・組立・取付のうち、オフサイトのプレハブ化工場で加工・組立を実施
- 現場の図面を基に工場で材料を加工・組立し、現場へ配送

効果

- 現場ではジャストインタイムで納入され取付のみ実施
- 現場内での移動時間を含め作業時間を大幅に削減
- 整った環境下による作業安全の確保及び施工品質の均平化
- 現場における産業廃棄物の削減に寄与





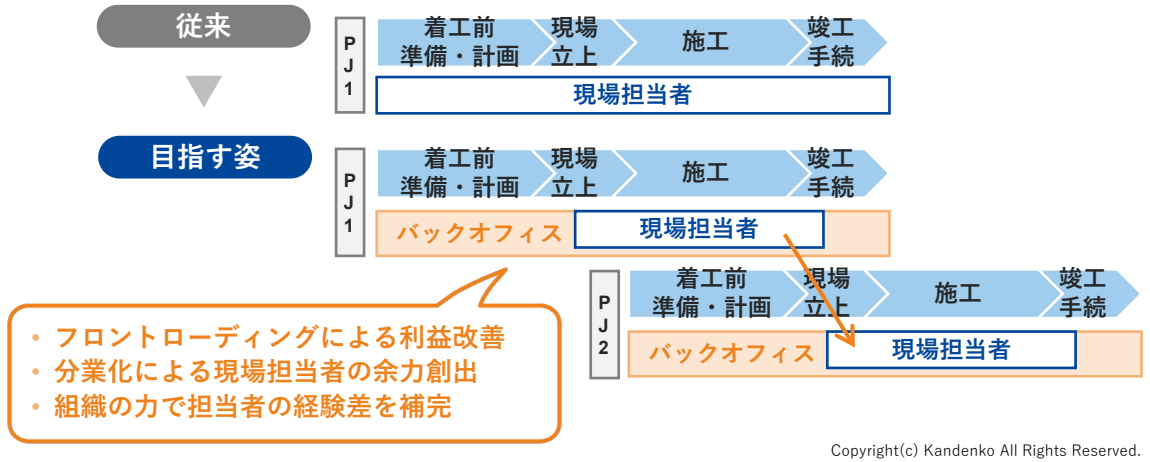


▶ バックオフィス化の推進

- 現場でしかできない固有の業務以外をバックオフィスへ移管・集約
- デジタル化により、遠隔拠点で複数現場の間接業務を集約処理

効果

- フロントローディングにより施工上の課題を早期に抽出・改善
- 分業化により現場担当者の余力を創出
- 現場担当者は安全・品質やコスト・工程管理に専念
- 間接業務の集約による標準化・分業化で業務効率化を実現
- 現場の時間外労働を抑制し、働き方改革・担い手確保に寄与



Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

生産性向上に向けた取り組み

■ 2030年データドリブン経営の実現に向けて、DX戦略を推進

■ 直近の取り組みとして、AIを活用した自動設計システムの開発、システム開発企業のM&Aを実施

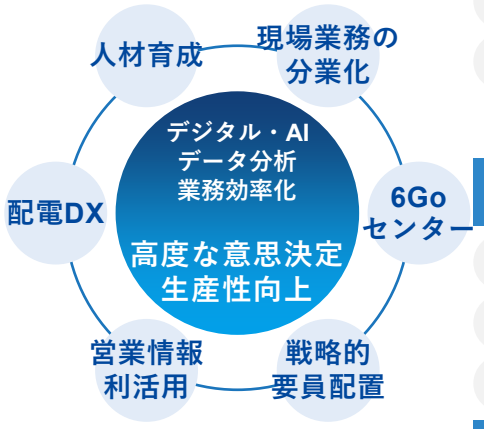
▶ DX戦略の全体像

関電工DX戦略 2030年データドリブン経営に向けて

DX人材育成
- DX人材育成ロードマップ
- DXリーダーの育成
- 階層別eラーニング
- マインドセット

配電DXプロジェクト
- 付託業務の生産性向上
- 現場業務のデジタル化
- 材料の適正管理

営業情報利活用プラットフォームの構築
- 顧客コンタクト管理
- マネジメントコックピット



現場業務の分業化
- 現場生産体制再構築
- バックオフィス
- バックオフィス オペレーションボード

6Goロジスティクスセンター構想
- 生産管理システム
- 在庫管理システム
- 需要予測システム

施工HRプラットフォームの構築
- 技術スキル管理システム
- 山積み・要員配置システム

経営情報統合基盤

▶ DXに関する主なトピックス

01 電気設備自動設計システム「VOLDAR」の運用開始

- 熟練設計者の設計ノウハウを計算ロジックとして実装
- 幹線根拠図の作成から概算算出までを一貫して自動化

電気設備設計業務の生産性向上と
設計品質の標準化を実現

02 ITソリューション企業「株式会社GCU」を子会社化

- ITコンサルティング、システム開発・運用の豊富なノウハウを保有
- 関電工の建設・インフラ・エネルギー分野の知見とのシナジー創出

現場DXの加速による生産性向上と
両社ノウハウを活かしたシステム開発を推進

Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

その他トピックス

技能五輪国際大会で銀メダルを獲得

中国・上海で行われた「第48回技能五輪国際大会」のインテリジェントセキュリティテクノロジー職種で銀賞メダルを獲得しました。
当職種は、今年の上海大会より新種目として採用された職種で、AIによる画像解析や監視カメラ、警報システムなどを組み合わせた総合的なセキュリティシステムを設計・構築の技能を競います。

近年需要が高まるデータセンターや重要インフラ施設では、侵入や妨害行為、サイバー・フィジカル攻撃などのリスクに対応する高度なセキュリティ設備が求められます。

今後も当社は、社会インフラを支える企業として、高度な技術力の向上と人材育成に努め、安全・安心な社会の実現に貢献していきます。

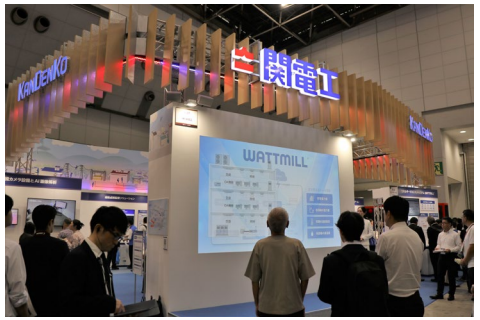


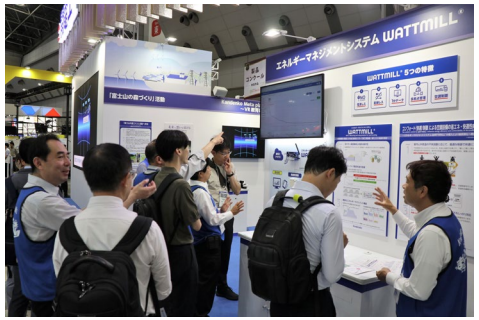


『WATTMILL®』が環境大臣賞を受賞

当社が自社開発したクラウド型エネルギーマネジメントシステム『WATTMILL®』が「JECA FAIR 2026（第74回電設工業展）」の第65回製品コンクールで、建物の省エネルギー化や脱炭素化への貢献、既設建物への導入のしやすさが評価され、環境大臣賞を受賞しました。







WATTMILL®の詳細は下記リンクをご参照ください

自社開発エネルギーマネジメントシステム『WATTMILL®』 | 関電工

Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

その他トピックス

自然災害復旧支援　～令和8年8月千葉豪雨および台風第25号～

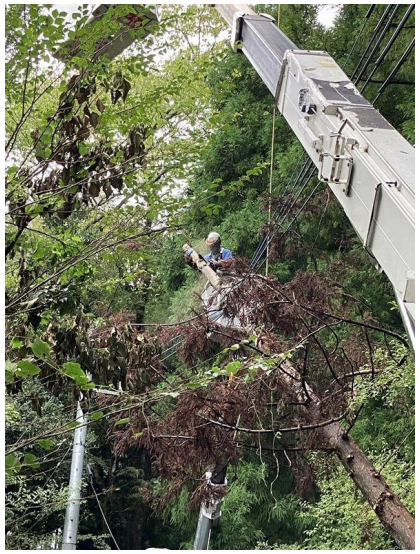
令和8年8月千葉豪雨および台風第25号において、当社は、電力設備の早期復旧に向けた災害復旧支援に従事いたしました。

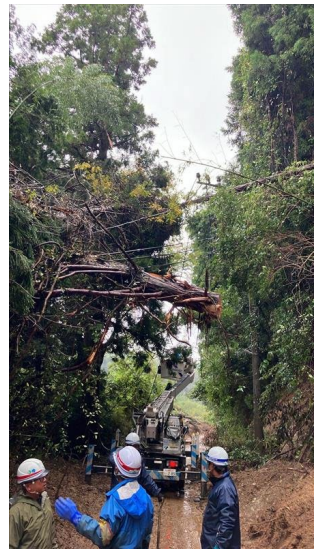
被災地域では大規模な停電が発生し、地域の皆さまの生活や社会インフラに大きな影響が生じました。また、土砂崩れによる電柱の倒壊や設備損傷など、広範囲にわたり甚大な被害が発生しました。

当社は電力会社からの応援要請を受け、復旧作業に従事する社員を派遣し、延べ約5,000名が被災設備の復旧支援にあたりました。

今後も当社は社会インフラを支える企業として、災害発生時には迅速な応援体制を構築し、地域社会の安心・安全の確保と早期復旧に貢献してまいります。







Copyright(c) Kandenko All Rights Reserved.

業績予想の適切な利用に関する注記事項

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。